北支

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十八年七月十五日印刷納本
昭和十八年八月一日發行（毎月一回一日發行）第五十一號

現地編輯

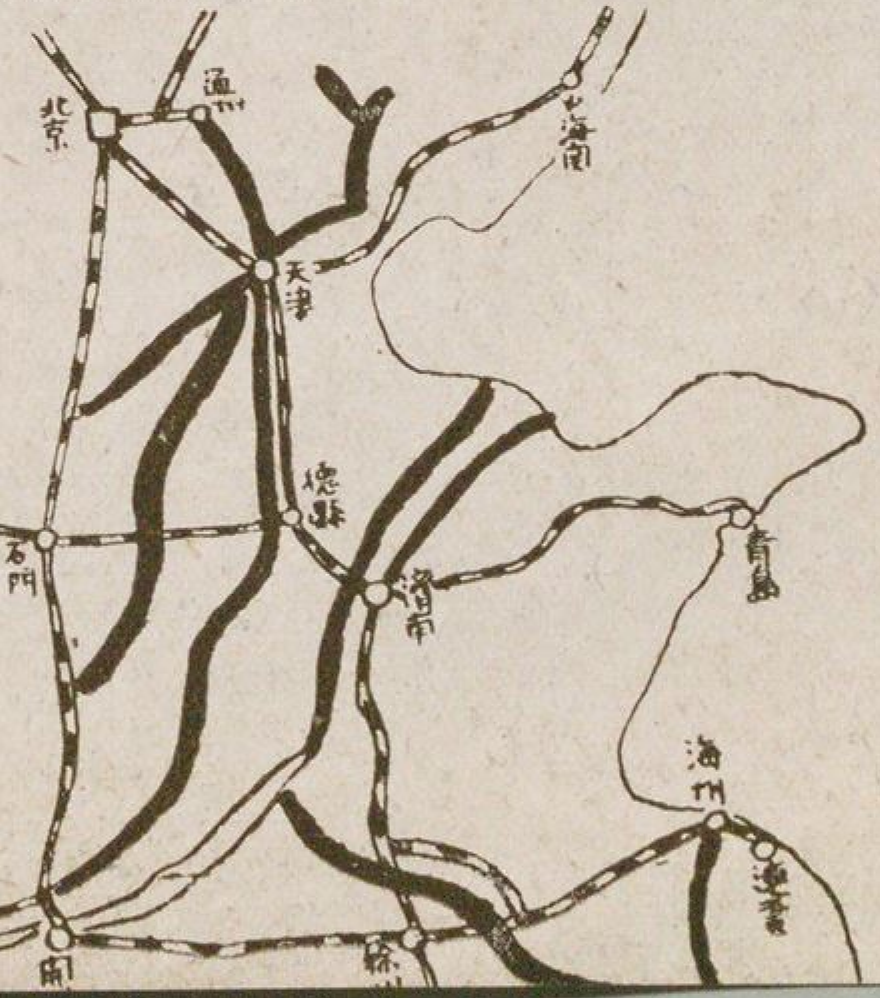
8 5

運河

北支の河川が、數十方里の耕地を蔽ひ、數百萬の生命を脅かすやうな大氾濫をよくすることは、廣い上流の受水區域に降る夏の暴雨の性格や、それに件ふ黄土層の洗刷、崩壞、流出による夥しい泥土の運積によるものではあるが、更に氾濫を發生せしめる一因は北支平原の驚くべき平坦性にも歸せられねばならない。一應平原建設の歴史を語り聞かされた者でも、實際に漠々たる北支平原が端的に示す平坦さの中に立つたならば意外といふか、不思議といふか、どうしてかくまで平坦な面の創造が可能であつたかを繰り返して反問せざるを得ない。從つてそこを流れて海まで辿らねばならぬ河流に與へられる勾配は極めて僅かで萬分の一―二の處が尠くない。それは一粁流れて十糎か二十糎しか降れないことである。この緩勾配は河　に於ける泥土の沈積から天井川の形成となり、決潰溢流の基礎的條件を胎むことは勿論、永嵩一米の氾濫水は上下十粁の流域を浸す可能性をも内藏してゐるのである。

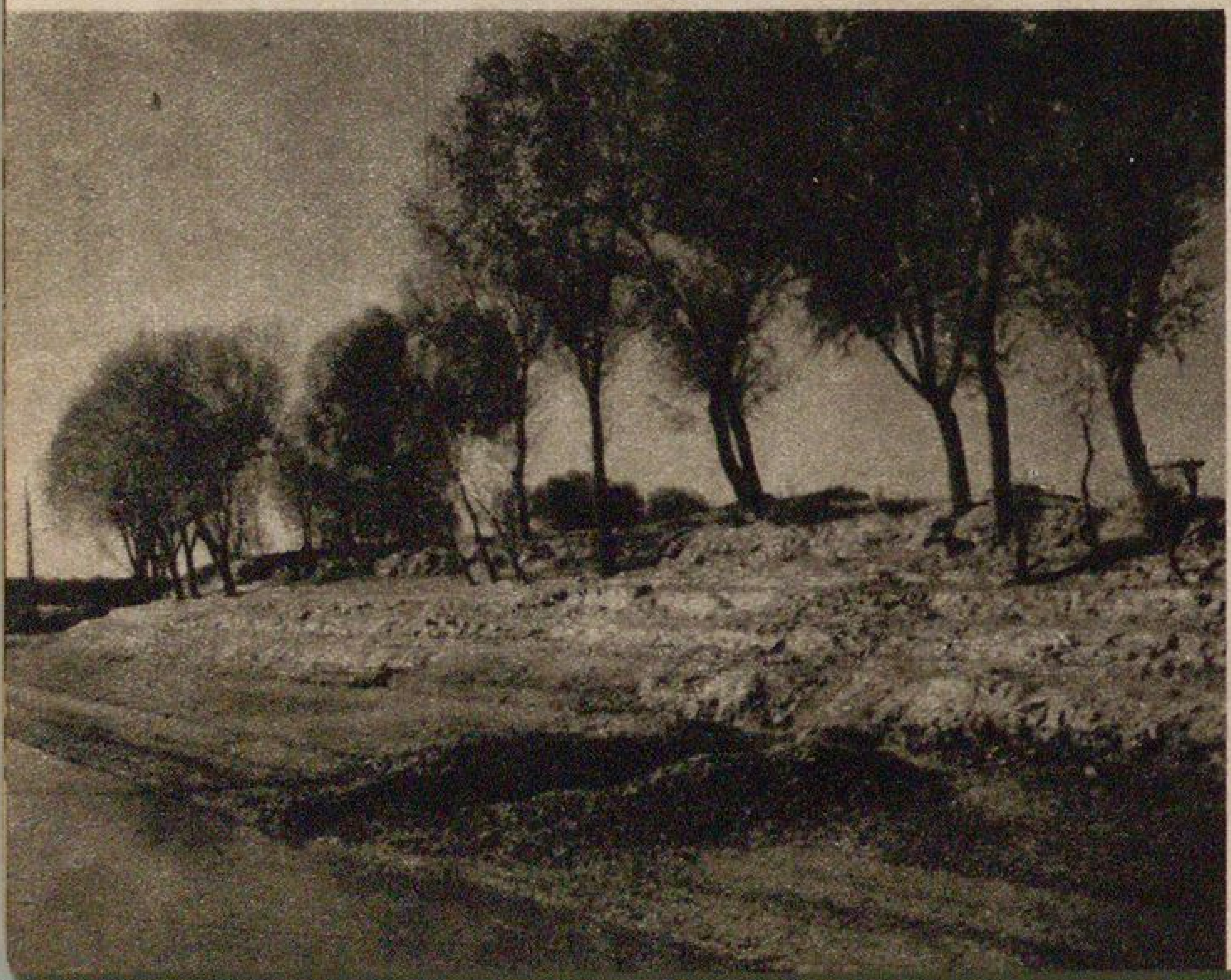
併しかゝる河川の緩勾配と平原の平坦さとは古くから航運を發達せしめることともなつた。そこでは自然流路そのまゝの利用がまづ盛んに行はれたに違ひない。殊に土地の廣大さから來る輸送距離の增大と泥砂質のために乾濕共に惱まされる平原の道路事情とは、水運への依賴を强めるものである。併し北支の平原では、二つの流域を連ねるやうな水路工作が容易であり、その平坦さに堪ゆるべき治水と乾燥氣候が强要する灌漑工事の必要性が、また土木の大規模起工を興したために、甚だ早期から運河工事といふものが行はれたやうである。

華北の運河略図



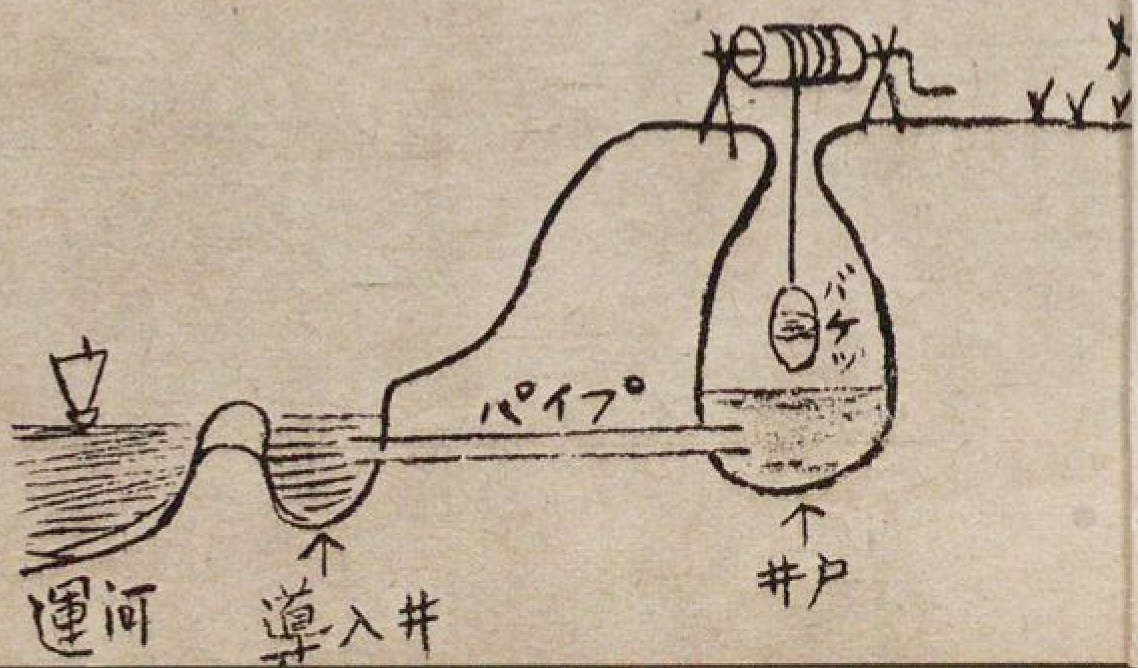
灌漑

新設された灌漑溝



運河の水揚げ場

運河の水を利用する井戸の
断面



民船

民船の艫部

北支の諸運河に巣喰ふ民船は、その自らが頼つて航るべき水の性質と、更にまた負ふべき荷物の種類に應じて、樣ざまな型がある。詳しくいへば、その技巧の傳統や材料の差異なども益〻型の變化を來たしてゐる。

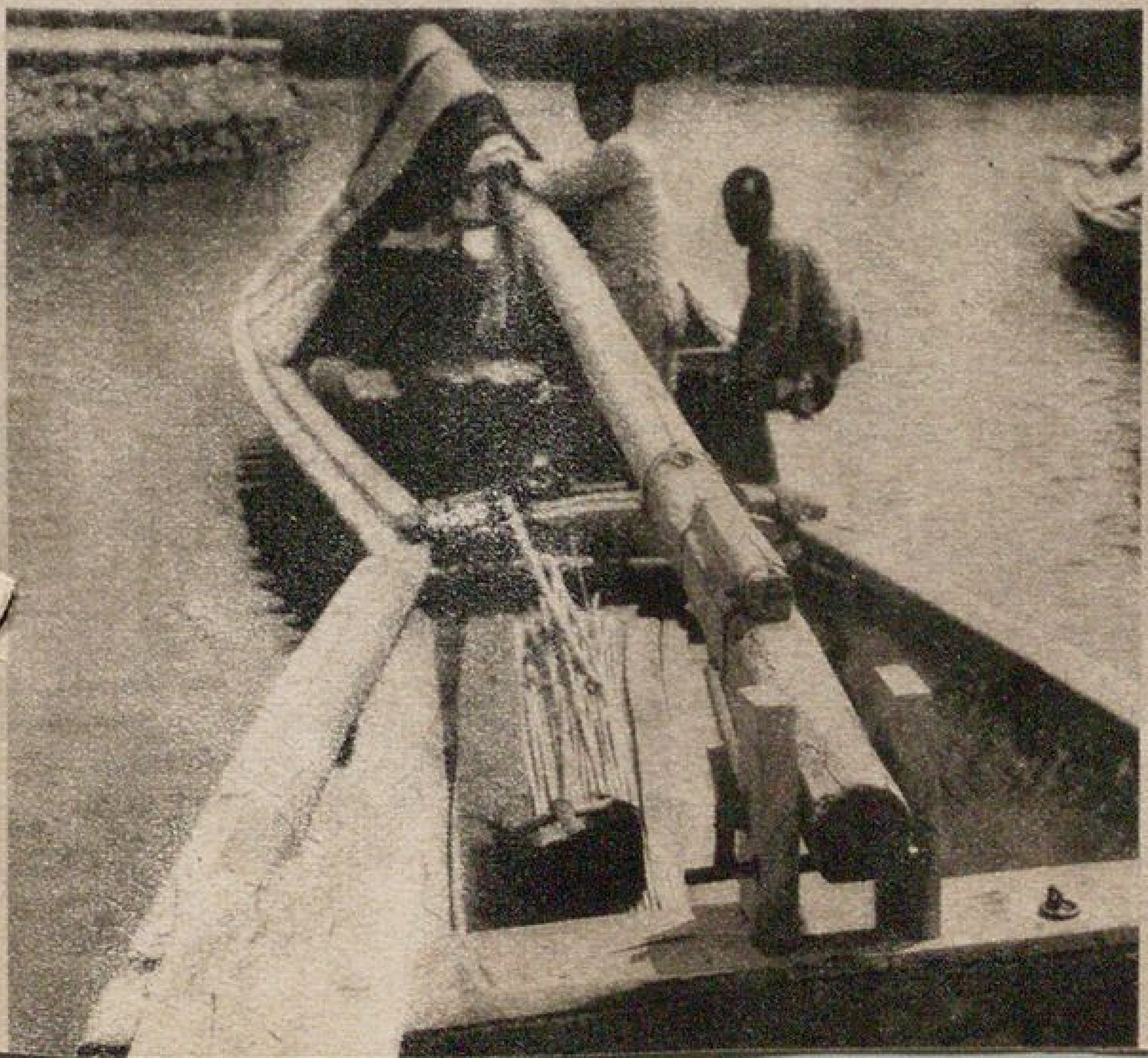
帆の有無や帆の型、船室の有無とその型、舳や艫の變化、艪と櫂と棹の使ひ別け、吃水の深淺、幅と長さの差等注目してゐたら實に多樣であり、各〻特有の名稱で呼び別けられてゐる。

併しこれを中、南支の民船に比べたら問題にならない。彼は遙かに多種多樣であり、また形態と彩色が佳美で、奇嬌に近いものさへあるのに對して此は何といふ素朴さであらう。形態は曲線美に乏しく、色彩は油色の一色である。このことは海洋を航行する民船についても同樣のことが云へる。

一般に北支の内河民船は舳から艫にかけての反りが淺く、船の面は殆ど平らである。また幅員も中央と端との差が小さく、中央の膨ら味は極めて僅かであつて、殆ど長方形に近い。そして支那全體にさうであるが舳は龍骨がなく箱型になつてゐる。

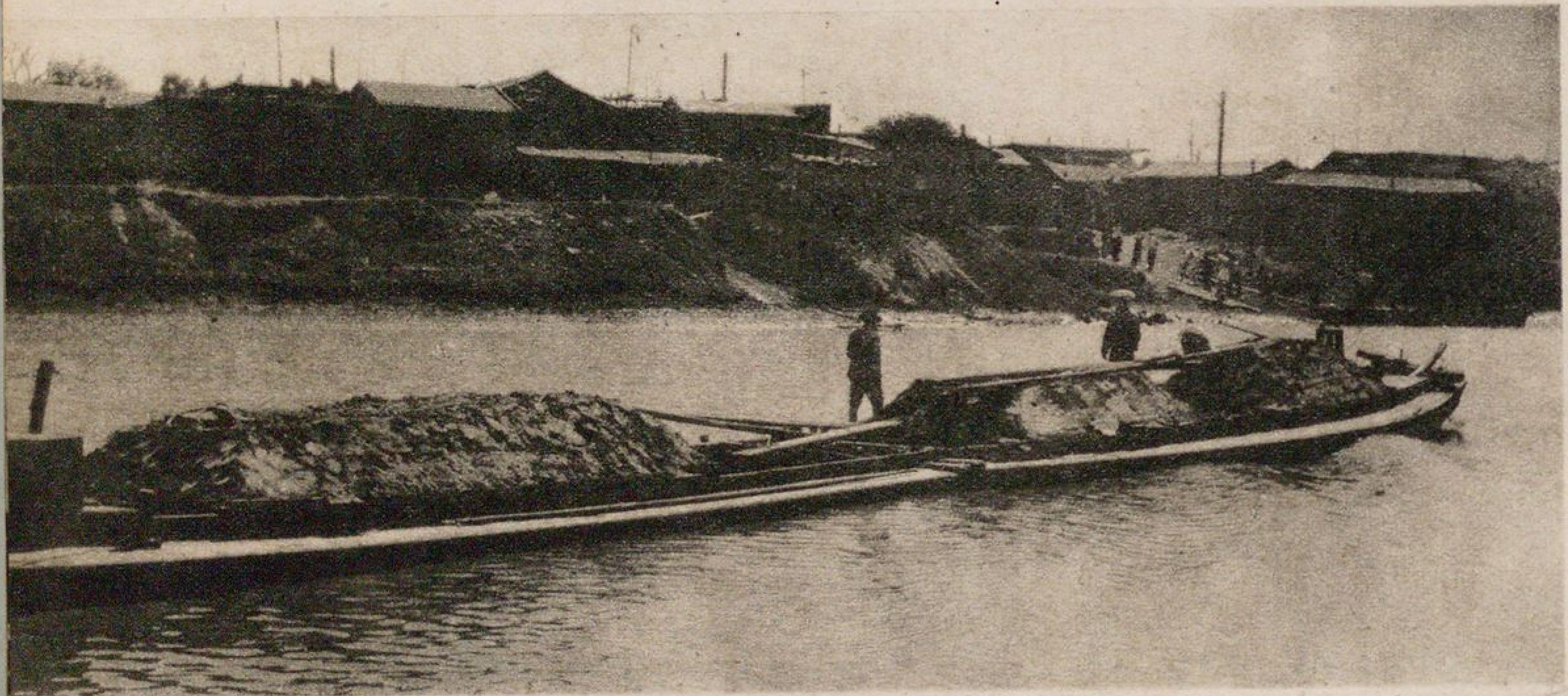
長さと幅との比は概して小さく、づんぐりして居る。著しい例は黄河の渡船の樣に幅廣いものがある。併し灤河の樣に可なりの急流部をも溯航して、熱河高原にまで達しようとする水路では甚だしく細長いものもある。

對雙子(トイソーヅ)と稱する民船、列車のやうに二つ連結することも、また切り離すことも出來る、帆柱は自由に倒して橋などがくゞれるやうになつてゐる



櫓漕用小型民船

渡し船、これは大小種々あるが、何れも扁平なのは車馬等の運搬に便ずるためである

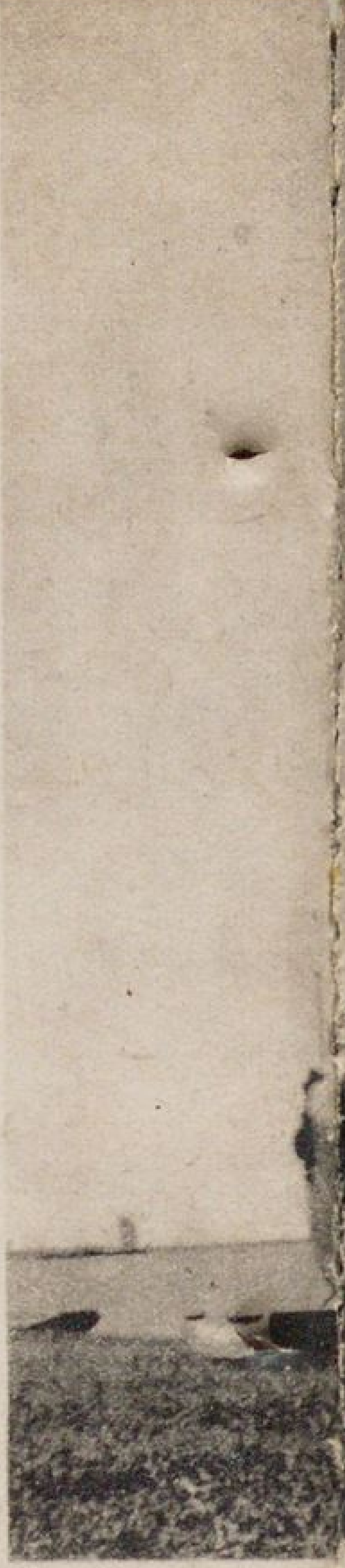


對槽子の代表的なもの

家庭用カヌーと云ふべきか、これは沿岸の住民が向う岸との往來に使用する

船の長さは曲流著しい場合は、これに制限を受けることがある。そこで北支では同型の船を二隻連結して航漕することが多い。この型を「對槽子」といひ、水路の極端な屈曲部に來ると切り離せる樣になつてゐて、そこを通過するに便利だし、日頃は連結しておけば、管理と航漕にも經濟的である。

これは、淺い水路に遭遇した折にも便利で、一隻づゝ荷を輕くして通したり、積み換へを行つたりして器用に捌かれる。



克戎

造船・修理

槪して淺い水路に適應するために、支那全般として民船は平底にして淺吃水に作られる。從つて、水を切つて行くのでなく、水上を辷つて行く方である。この點日本の船と根本的に違つた機構で航行するわけであるが、岸は遠淺であり、水中には洲の多い處であるから、接岸の上からも、又萬一坐洲した場合の處置を容易ならしむるためにも、この平底が有利である。そして內地では想ひもかけぬ程の淺い河をも上流まで溯り得るのである。

かくて北支の內河民船は北支の內水に適應した發達をとげては來たが、惜むらくは近代的な速度を捷ち得てゐない。これに對して曳航汽船を配して民船數隻を曳かしめ、この曳航民船輸送の集團を編成させれば、そのまゝ水上列車とも言ふべき形態がとれる。華北交通が機械化集團輸送と稱するのはこれであり、目下曳航能力の增强のため新船の建造と船型の改良研究が進められてゐる。

修理

華北交通の使用する新型船の造作業——山東省史各莊造船所にて

運河の經濟的意義

北支の河川や運河は古くから拓かれ産業文化の源泉となり、或は交通の根幹となつて現在の北支を創る基をなした。

これらの河川の流域や背後地は、農産、鑛産をはじめ頗る豐富な資源を擁してゐて、所謂冀中、冀南の穀倉を形成し石炭資源はこの二つの平野地帶だけで優に三十億瓲の埋藏があると稱せられ開灤、焦作、中興、棗莊炭礦等はその主なるものである。

北支の河川に於ける民船の輸送力は年間約三百萬瓲である。

かくの如く河川の流域に於ける富源の開發は水運に俟つところ多く、他の輸送機關が普及してゐないだけに水運の急速なる擴充強化は現下の急務である。だからこそ華北政務委員會建設總署がその建設を推進し華北交通が當面の採算を無視して强力運營を爲す意義もまたこゝにあるのである。

船から汽車へ

水路の護り

傳書鳩、水路では唯一の通信機關である、いざといふ場合には救ひの天使ともなるのである

沿岸巡察

船團の警備方法は狀況に應じて種々な體型がとられ、民船は全く安心して航行する

皇軍屢次の作戰と中國參戰による政戰兩略の効果は近來特に著しく、將系軍將兵ばかりでなく共產軍の中にも抗戰の愚を悟り我陣營に參加するものが續出し、大陸戰線は日增に明朗の度を加へつゝあるのである。

かくの如く我が防衛は鐵壁ではあるが、しかもなほ網の目からこぼれた敗殘兵が隨時隨處に所謂ゲリラ戰術を以て蠢動してゐるのが現狀である。鐵道六千粁、自動車路一萬七千粁、水運路四千二百粁の長大な重要交通路線は敵匪にとつては最も恰好な攻擊目標である。

敵もまた必死である。欺瞞戰法、謀略戰法、奇襲戰法と手をかへ品をかへて執拗にやつて來る。

これに對して、第一には武力によつて交通路線一帶から敵匪を追拂ふことであるが、それだけでは十分でない。どうしても沿線の村民を心から我方に惹きつけねばならない。その前提として先づ交通路愛護思想を徹底させねばならない。

前者は主として皇軍が擔當し、前述の如く著々その効果は擧りつゝある。

後者は周知のやうに、いはゆる愛護村地帶であつて、華北交通が之を指導し、多數の人と尨大な經費とを以てこの聖なる目的の達成に努力してゐる。

尙、水運路の警備に關する詳細は本誌よみもの頁を參照せられたい。

大運河に沿うて南北物資や文化の中繼地として榮えた山東省濟寧

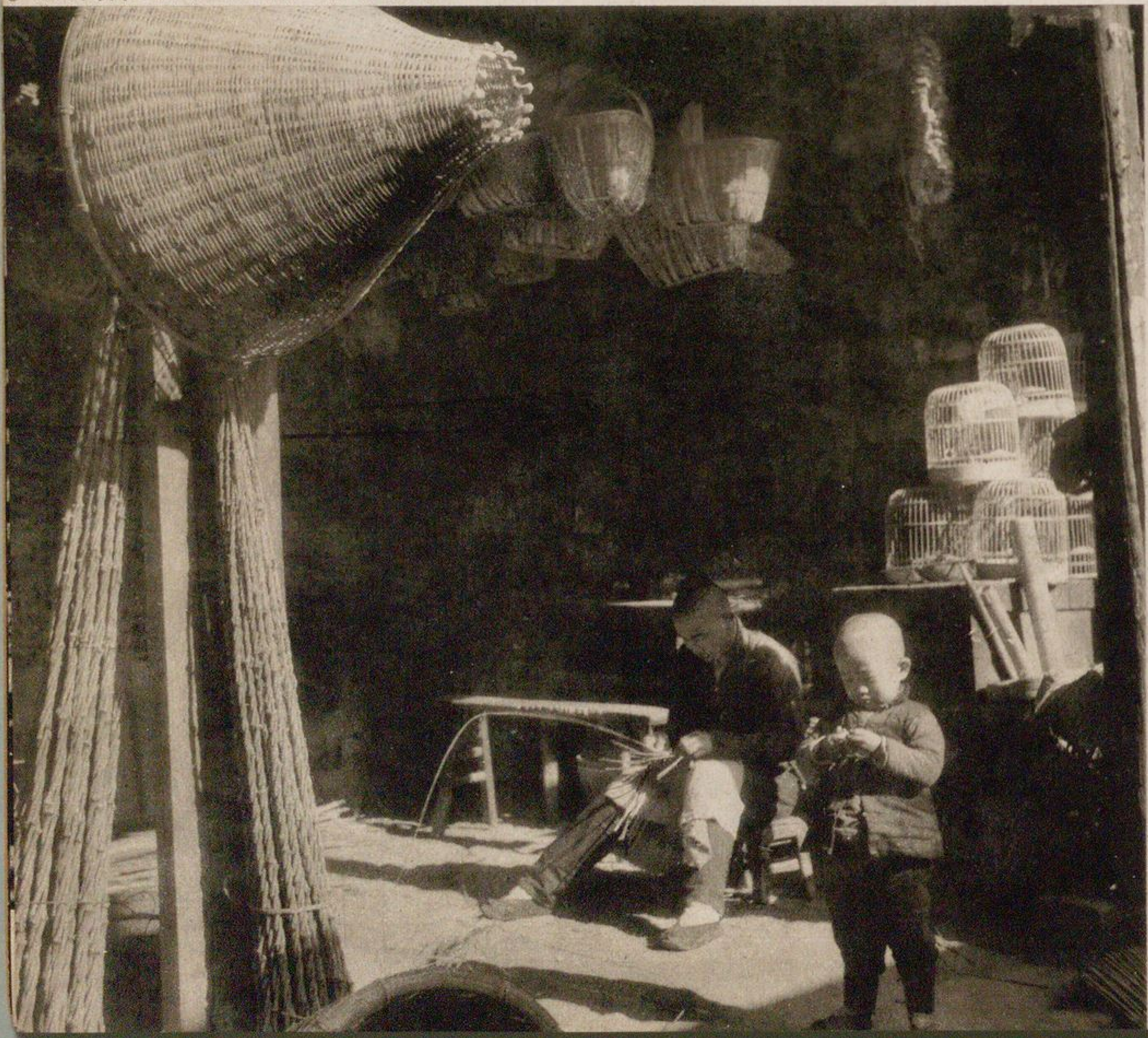
運河に發した街

北支の可航水路は、黄河や小淸河、それから白河系五大河を初め、薊運河灤河等を合はせると總延長五千四百粁に及び――そのうち目下華北交通によつて運航されてゐる部分は四千餘粁――これを上下する各種民船の數は三萬五千を下らない。この水路延長とこの輸送手段とに依つて動く物資の量は實に大きなものがあり、一概に南船北馬の言によつて北支の平原から水上輸送の交通的價値を抹殺するのは輕擧も甚だしい。彼の津浦線が開通して獲得した貨物は大運河輸送力を六とすれば四の割にしか達しなかつたといふ。

かくの如く平原交通の動脈として二千年間物資の來往絡繹たるものがあつ

船が着くと港は活氣を呈する、遠方から驢馬に乘つて交易に來る農婦もゐる

中支から運ばれる竹は北支のより質が良く、精巧な細工に適してゐる、濟寧の街にはこんな竹細工屋が軒を連ねてゐる



た內陸水路に沿うては、無數の舟着場が榮えることになつた。歷代帝力の搾取路でもあつた大運河に沿ふ泊地は勿論、難險や閘門などが强ふる水路中斷に刺戟されて發生することもあれば、水路の蝟集や分岐に當つて繁昌する町も出來る。或は又海口や上流終航地點では海洋民船や車馬との連絡が舟泊を餘儀なくさせる。かうして北支の野の中にも運河町とも言ふべき泊地が特殊の聚落形態を發生させてゐる。

この種の聚落では舟が待機する舟溜りや、荷を揚卸する河岸風景が勿論中心である。舟溜りは碼頭（河岸）の上下流の岸に選ばれることもあれば、水路の幅に餘裕があると、中央の水域は群集待機することがある。碼頭は石で疊まれてゐることもあるけれども北支では却つて土堤のまゝのことが多い。この碼頭が大抵一筋の水路に倚るため長くなり、これに沿うて問屋町が並行する。更にその外に商店街や城市を擁することが普通である。

これ等の運河町を拾ひながら北支平原の圖上に旅を試みて行くと、それが北支平原の主要市場の大部を占めてゐることに氣付くのである。そして今更內陸水路が北支文化の發達史の上に果した任務の大きかつたことに驚かされるものである。

風の方向を知る旗

運河に生きる

帆の修理

民船は帆柱の下と艫の方に二疊敷くらゐの居間があり、船頭たちは一生をそこで暮すのである

大陸に於ける河川の船頭達の間には青幇といふ堅い結社がある。この結社は永い傳統を誇り、彼等の間にはこれは一種の信仰の如きものである。

青幇は安清幇とも呼ばれた。それは江南米を北京に漕運し清朝を安んずるといふ意であつた。然しまた、幾多水路の危険を押し切つて漕運の任務を果さなければならなかつた彼等は内心船路の平安清吉を祈願してかく自から呼んだのであらう。青幇は帽子を置く時決して伏せることをしない。必ず内側を上向けにして置く。日本流に伏せて置くと、慌てて上向きになほしたりする。伏せた帽子は沈沒した船のやうで彼等には不吉でたまらないのである。それもその筈彼等の民船は貨物船であると同時に家族一同の住む家でもあり、船の顚覆は即ち家の顚覆であるからである。

耕地を有し自己の農産物を運送する船頭のやうに陸地に家をもつものは別として、青幇たる生粋の船頭家族は民船の中で産聲をあげ、民船上で生活し、その一生を民船の中で終るのである。從つて民船には屋形がとりつけられてゐる。大運河の划子（ファーツ）といふ民船はこの種の標式的なものであるが、船の中央と後部に屋形があり、家財道具一式が揃つて、水神が祭られ香の煙さへ立上つてゐる。かゝる屋形船は貨物船として吃水も深く積載率が低下するのは止むを得ない。現在水深の淺い大運河にこの划子が運航してゐる矛盾した現象はかゝる社會的原因に基くのである。船の中には家族のみでなく、家畜も居

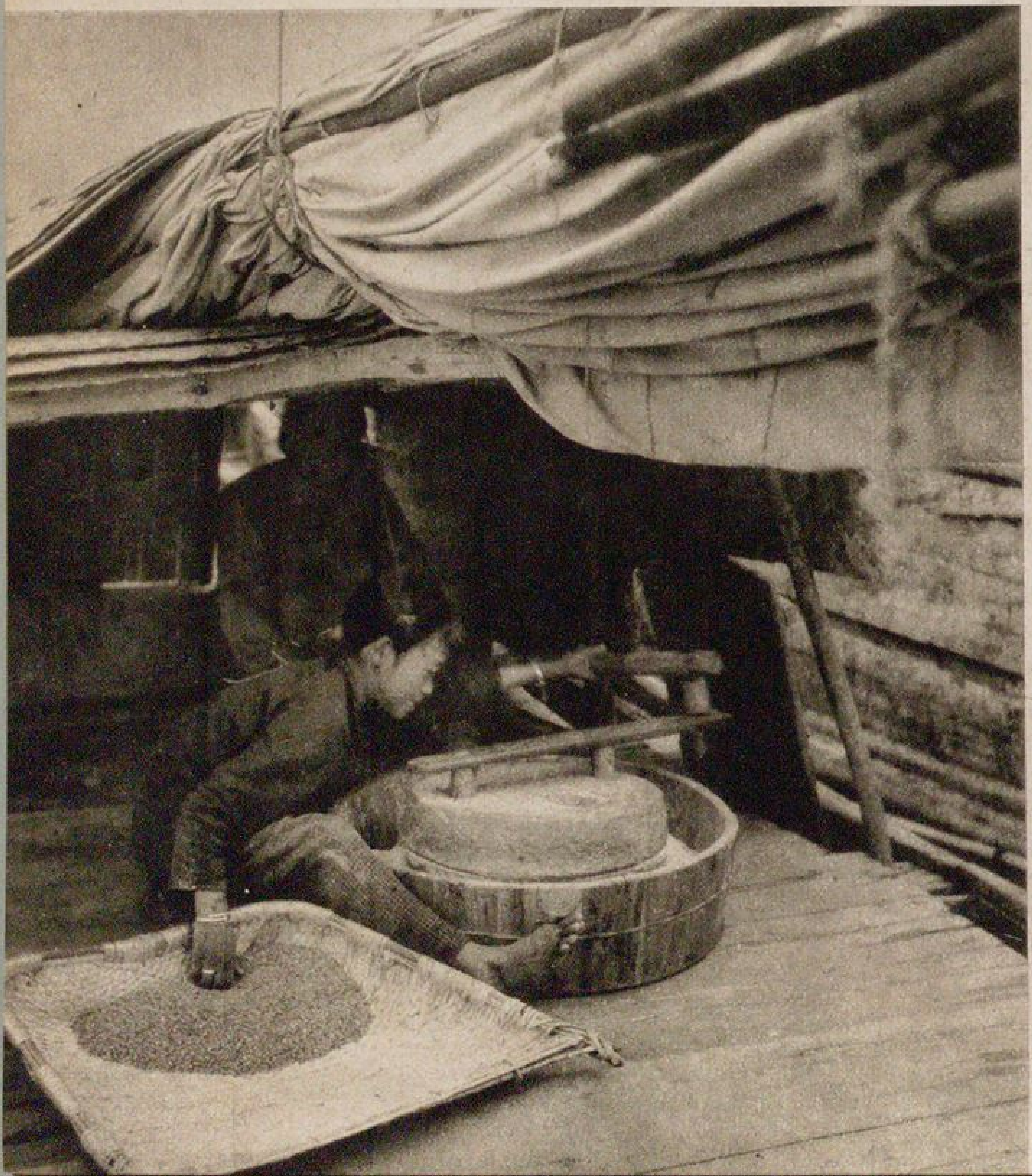
る。荷役の際こぼれた穀物を啄む鷄、船に前後して泳いでゐる家鴨等をよく見かける。順風が吹き船の速度が增すと、家鴨は船側の籠の中に入れられちよこなんとしてゐる。船頭家族の飲料水は運河の水を用ふ。水壺で汲み上げ明礬を少し落して、かき廻はして置くときれいに澄んでしまふ。その中でよく、小魚がピンピン泳いでゐるのを見る。この水を煮沸して飲むのであるが井水よりも軟かく茶水として好適である。近所で洗濯してゐようと、便器を洗はうと神經の太い彼等は平氣で水を汲み上げる。「水流三尺自清澄」とでも嘯いてゐるやうである。食物は陸上生活者とさして變つてゐないが、麥の實鷄頭米（チトミー）などは彼等の好物で秋になると自から採集する。食に窮した場合彼等は名も知らぬ水草を喰ひ續ける。それは洪水や旱魃で食を失つた農民が木の葉、樹皮、雜草を喰ふのと變りなく、その生活力の根强さには驚く。衣服も亦別にとり立てて書くほどのこともないが、よく男の子が女裝することがある。これはその子供の健康を祈る呪ひである。（北支第五巻第一號參照）又船の中にはいとも簡便な水便器が備へてある。船尾の舵の左側に民藝品蒐集家の欲しがりさうな小桶が紐で吊り下げられてゐるのがそれである。

樂しい食事

船に育つ

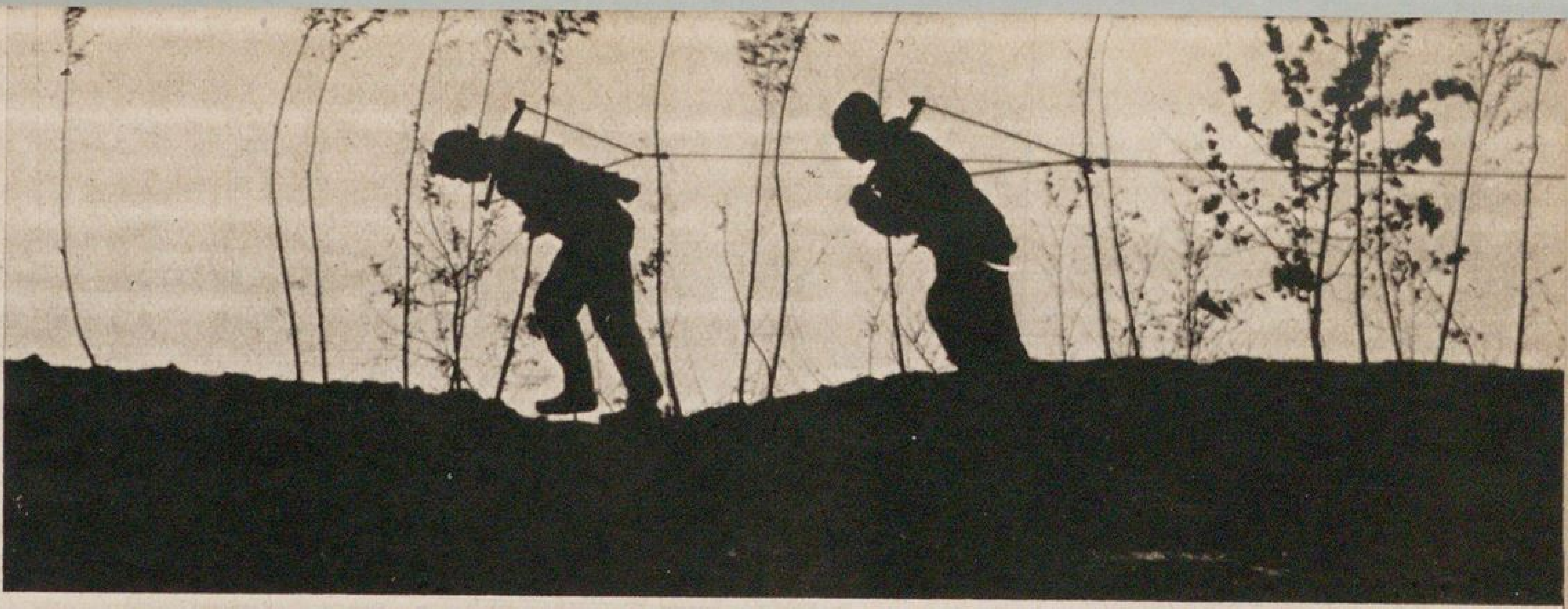
母親の膝に乳を貪る兒、背に紐を付けられて遊んでる子供（紐は墜落の危険を防ぐため。溺死せぬやうに大きな瓢簞を負はせたりもする）。高粱か小麥かを碾いてゐる女の子。一家の生活は何もかも船で行はれる。

船は移動する家なのだ。狹く暗い船底の室で產聲を上げた子供達。男の子は十三四歲になると父に協力しながら



一人前となり、船頭の跡繼ぎをする。だからここでは男の子が特に大切にされる。男の子に女装させ名前まで女名にするのも、健在を祈るまじなひであ る。女の子が立小便をするのを見て喫驚させられたりするが、そんなのは男の子である。滿十二歳になると女装をやめて、表裏一體の男の子にかへる。

女の子は梶を取つたり、帆の揚卸しをしたりして母親の手傳をする。船には水神を祭つてあるが、香をたき鐘を叩いて、水路安全家業繁榮を祈るのも女の子の務めである。そして年頃になれば紅幕を繞らした花船に乘つて、仲間の船頭さんの息子へ嫁入りをするのだ。かうして代々船頭がつづいてゆく。



民船の操船には帆走、押船、櫓漕、曳船等がある。帆走は順風を帆布に孕ませて進む最も快適なるものであることは云ふまでもない。押船は竿をさして進む方法で、櫓漕は水深の深い竿のさせない場合に多く用ひられる。然し北支河川の操船の最も實感の現れてゐるのは曳船である。帆柱の天頂から縄を張つて船の大きさに相應する數の曳手が堤防に足場を求めて力強く曳く。船頭は船首にあり、竿で船向きを整へると共に押船を兼ねる。その妻女は少しでも順風が吹けばスル〳〵と帆を揚げ曳船の負擔を輕くする。堤防の高さに依り曳縄の附根を幾分上下する場合があるが、保津川下りの舟の遡航のやうに船首から直接縄を曳くことをしない。それでは船首が岸にへばりついて駄目だらうとそんな試みをやつたことのない船頭は云ふ。この曳船は逆風のつよい時、或は足場の悪い湖沼等では相當に苦しい。かゝる場合船頭は聲を和して順風を呼びその助けを借りるのである。炎天に田草を取る時涼風を呼ぶ越後の風習に似てゐる。かくの如く操船には帆柱が重要である。帆柱を過つて折りそれに家族一同泣きすがつてゐるのを見たことがあるが尤もなこと

操船

男達は曳船、櫓漕に根かぎりの精を出してゐる、主婦は帆綱を握つて待つてゐて、微風でも吹けばすかさず帆をあげて男達の勞力の輕減につとめるのである

である。資材難の今日この頃素性のよい帆柱の入手は困難である。帆柱のみならず、船材帆布も亦貴重なものとなつてゐる。だから冬季の凍結期間にこれ等一切が丹念に修理される。かくしてこそ二十年以上の使用にも堪へられるのである。

曳船

輸送機械化

順風に會へば帆をあげて走れる運河の船も風が無ければ岸傳ひに男達が曳いて歩かねばならない。その非能率的なことは我々日本人には堪へられないものである。

昭和十五年華北交通で數回に亙つて汽艇による民船の集團曳航試驗を行つた結果、輸送の迅速、輸送費用の節減、輸送能力の増大、治安上の效果などの利點に鑑み曳航機械化の五ヶ年計畫を樹立し、著々實行に移しつゝあるのであるが、これによれば、昭和十七年度を基準として二十一年度に至れば、その輸送量を十倍、〇〇萬噸に達せしめ得る豫定である。

そのためには汽機船の航行に適する水路の改良維持とか、浚渫船、警備船の整備とか、修船所、碼頭の増設など多くの資材と勞力を必要とするのであるが、その困難は必ず克服されて計畫は是非實現されなければならない。これはまさに支那の運河の輸送史に一つの轉機を劃するものとなるであらう。

次に華北交通の内河水運建設五ヶ年計劃の要領を示せば

イ 汽機船運輸の健全なる發達を圖ると共に民船の全面的統制と運營を行ふ

ロ 民船の全面的統制は主要地に船主公會を結成せしめて指導する

ハ 船舶整備計劃を樹立し汽機船を建造して民船を援用しつゝ物資輸送の強化を期す

汽機船による曳行——東北運河

水路の浚渫・改良

自然の流路に從ふ支那的運河と雖も水路の改良や保護は加へられねばならなかつた。まづ溢流し易い流路の保持に高い堤防が築かれる。その堤防は勿論土堤であり、特に水の側侵蝕を防ぐべき部分も石やセメントなどで張られることはめつたにない。せめて柳條や高粱桿を編んで固める程度である。

さて溢流を防ぐ點に於いては治水と同一の効果を覘ふことになり蛇行水路に對しては蛇行帶を見込んだ廣い間隔をおいて築堤されることが多い。そして流路と堤防との間には灘とよぶ餘地が生じ、土地を求めて飽かぬ農民は耕したり羊の放牧場にも利用したりするが、そのまゝ船着場－埠頭の任務を果すべき餘地ともなることが尠くない。

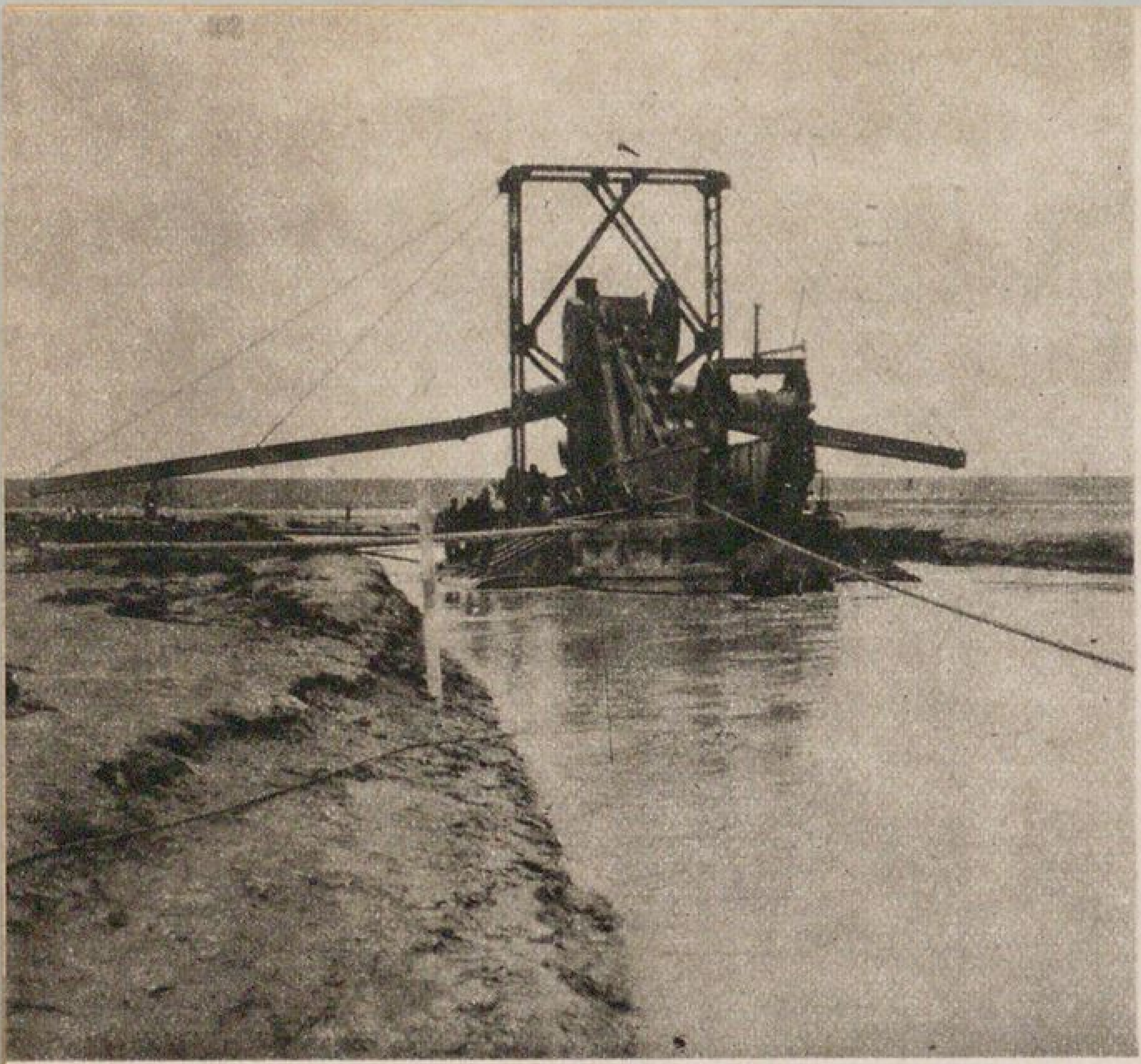
併し特に水深を深くするためには堤防を接近して、水路を束集する必要がある。更にその水深の維持には年々夥しく運ばれて來る泥土を渫へ上げねばならぬ。この浚渫土は肥沃であるから沿岸の農民が畑へ運びたがるものであるがこれに依つて堤防も高さを補はねばならない。

北支の運河に沿うて設けられた興味ある施設は、曲流の名殘りである舊河道の半月溝を利用したり、逆に曲流に圍まれた〃袖〃又は〃袋〃と呼ぶべき突出部の頸部に切り込んだりして用意されたドツクらしきものである。そこでは御用にはぐれた待機民船や破損して修理を受けつゝある老骨民船が引込まれるのである。

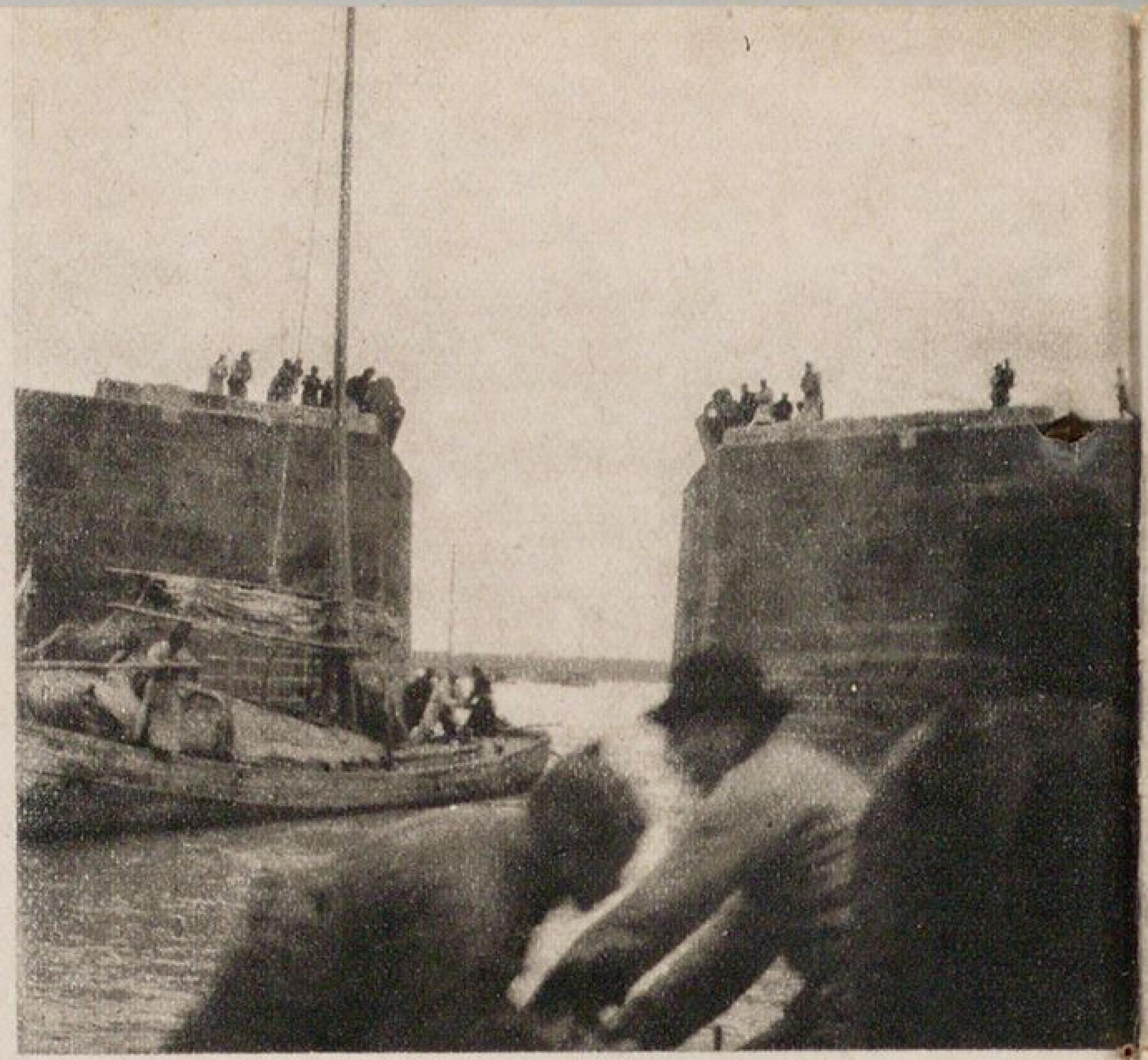
最後に北支の運河で最も目立つ人工施設は閘門である。これには、支流又

運河の護岸設備

船團の碇泊



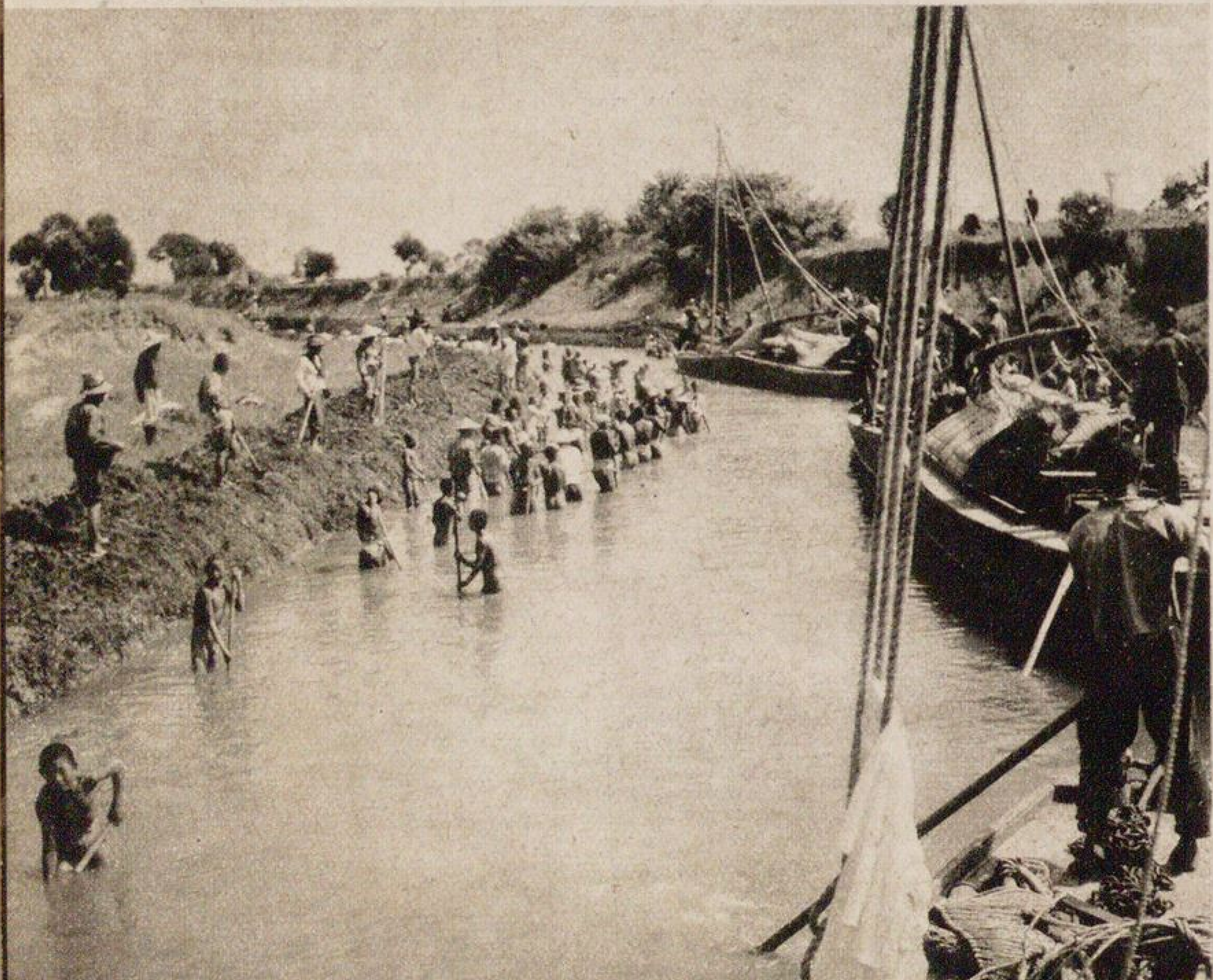
浚渫船、水路の建設は專ら建設總署で之をなし、小規模の改良浚渫は華北交通が之を擔當してゐる



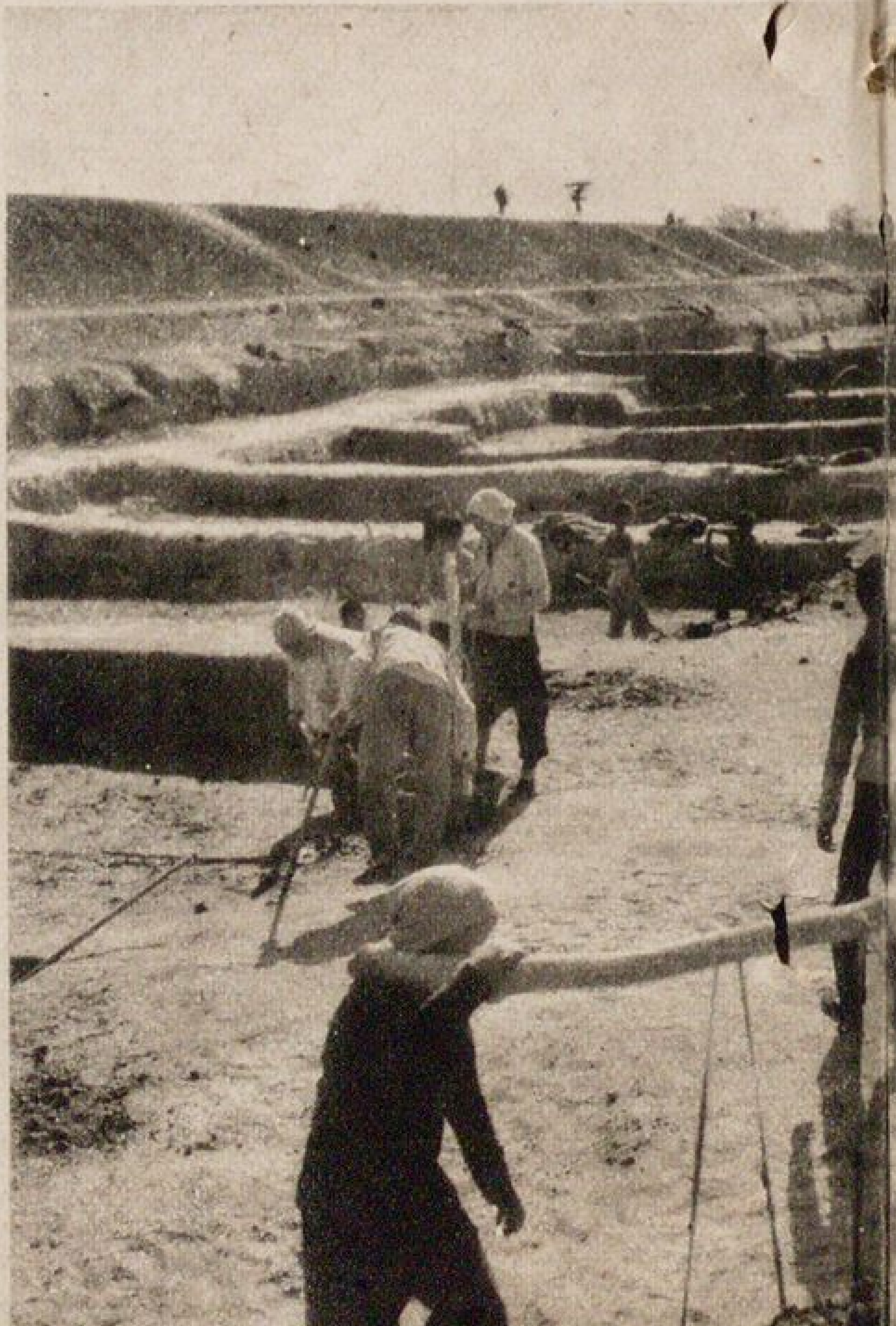
要所にダムがあり水勢を調節する——蘇北運河

は分流との間に設けられた、單なる節水閘もあれば、節水の範圍には屬するが潮流の影響を調節するものもある。また流路斷面の急勾配を調節しようとする閘門がある。この後者に屬するものは人工開鑿に依る運河に一番多く見かける。北京から通州に出る通惠渠、大運河の山東段、小清河、其他徐州附近の河渠にもある。今も殘るこれらは古くて唐宋の代、多くは元以後、明、清にかけてのものである。何といつてその型式に於いても、また數の上に於いても、新しい科學的建設部門の力によつて改められねばならない。そこに新しい日本的技術と中國政治との協力が要望されるわけであり、今や正に展開されつゝある次第である。山西の鑛炭と河北平原の穀棉とを低率運賃を利用して石門から天津へ輸送しようといふ石津運河の開通の如きは、この意味に於て最も代表的なものである。

航路の修築に愛護村民の協力



運河の開鑿工事——石門・天津間



に示す如く運河の水を井戸の中へ導入し、牛・驢馬・人力で汲みあげて畑に注ぐ

北支では五年に二度の洪水と三年に一度の旱魃があるといふ。それは決して誇張ではなく、しかも、同じ年に洪水と旱魃が相重なることも珍らしくない。年間降雨量が少く、しかもその過半が夏季に集中する北支では、これが昔から常に征服の努力を續けられながら未だに果し得ない最大の懸案なのである。

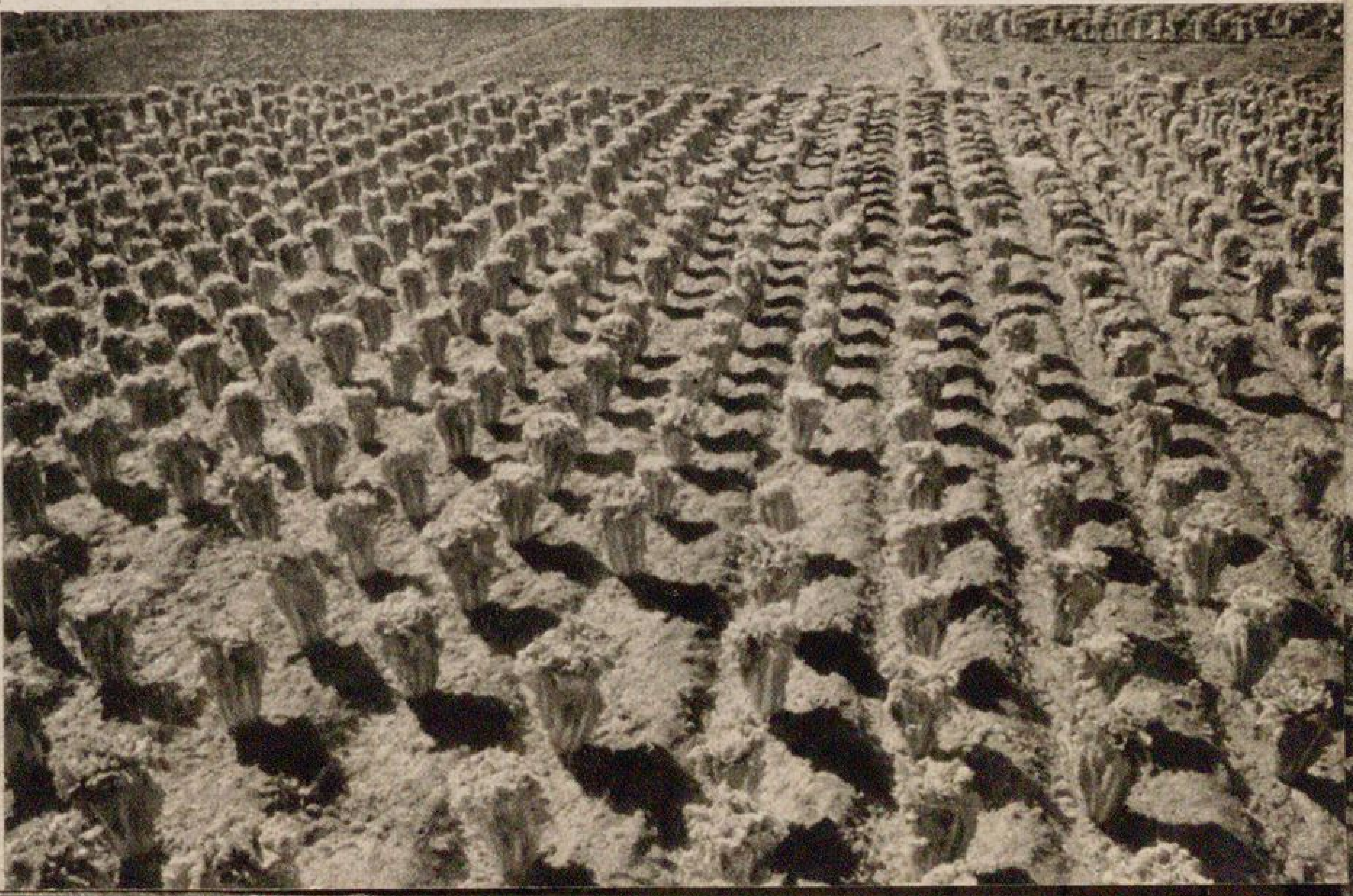
運河をひらくことは何時の時代でも國家の大事業となつてゐるが、運河は舟運のためにひらかれるのではなく、治水、利水のためである。北支の農業は灌漑に基礎を置くが、運河灌漑なしに農業を考へることは不可能である。灌漑の方法は雜多で又粗放ではあるが運河の水を實によく活かしてゐるといへる。時には灌漑水に水をとられるために民船が運航出來ないといふ不平すら出て來るのである。

運河から灌漑溝をひき、龍骨車で、或ひは柳籠で汲み上げる。如何にも北支らしいのんびりした風景と見るだらうが、生への根强い力が滲みでてゐることを感じ得ないものだらうか。

今、運河の掘鑿、改修へ營々と努力が續けられてゐる。米麥等食糧の增産へ、棉花の確保へ、近代的な灌漑施設が邦人の指導の下に作られつゝある。また水田を作るためにアルカリ地帶の脫鹼にも運河の水はひかれて行く。運河は常に北支農業の母胎である。

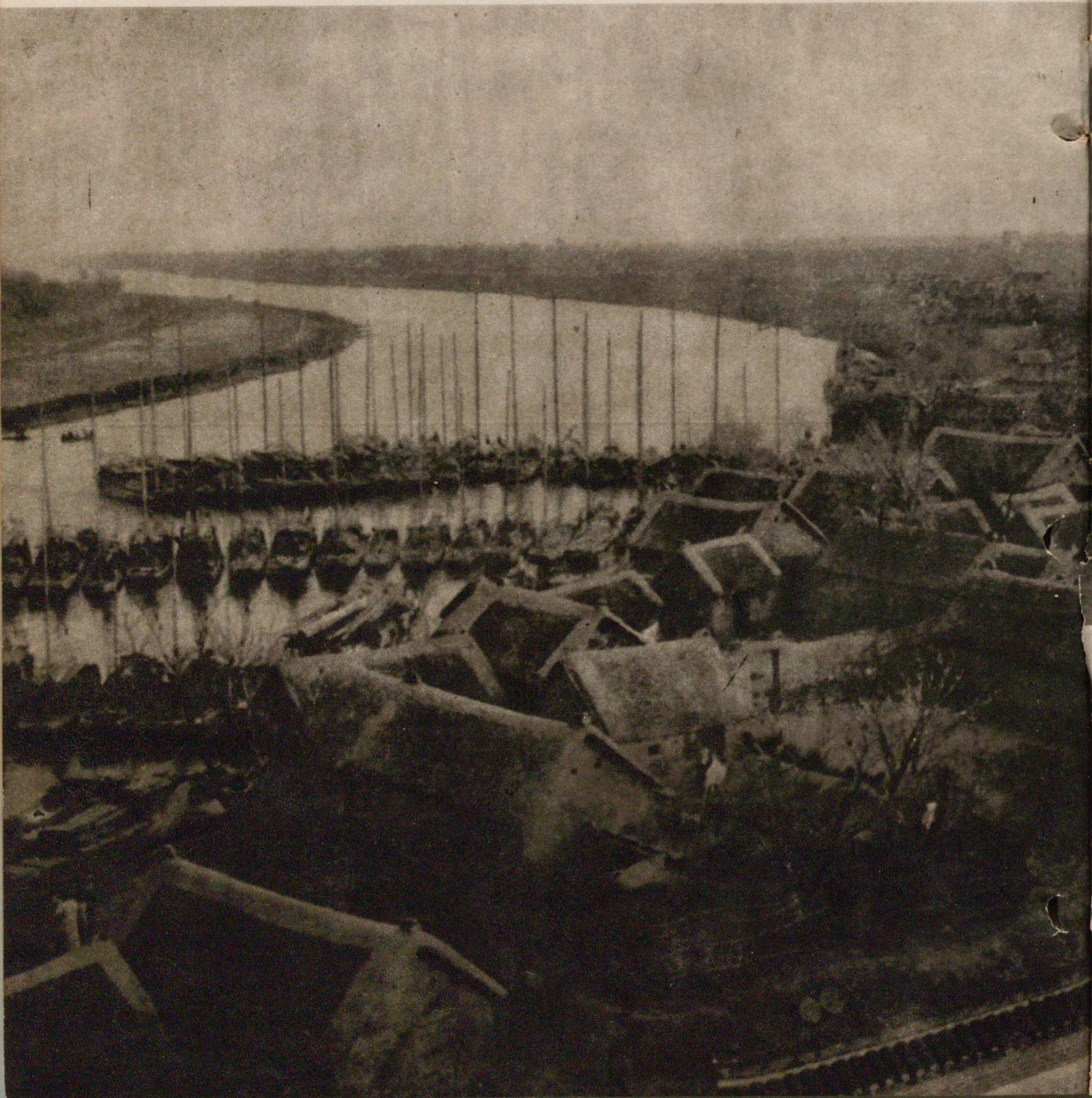
骨車による灌漑

沿岸に栽培される立派な白菜



運河の最も古い支那の記錄は三千年前に遡られるが大きいものでは、春秋の頃呉王夫差が淮河と揚子江とを連ねた話や、隋の煬帝が北の衛河と南の泗水、揚子江及び錢塘江とを黄河に連ねたことは有名である。

尤も支那で運河とよぶのは、貢納糧米を運ぶ河といふ意味の運糧河の略稱であつて、その大部は、自然流路を利用し、その流路の保持といふ手段としての加工が施された程度のものであつて、特に開鑿された人工水路といふものは二つの自然流路を結ぶ若干の區間にのみしか見られない。從つて河川の著しい蛇行がそのまゝ辿られてゐる。その蛇行は日本人的な考へでは耐へられない程の迂曲ぶりで、航程を延長すること甚だしいが、流路曲線はこれが爲めに愈ゝ緩勾配に保持される。これに直ちに切割工事を施せば放水能力を增大して洪水を豫防し、航路も短縮されるが、それが爲めに急流部を惹起するやうなことを避けて、自然の適應勾配に從つて上下する內陸水運の歷史的性格は確かに支那的である。



順風に帆を張り、石炭、棉花、穀類を滿載して鐵道積替港へ、
天津碼頭へと走る船團は大體百隻から二百隻を以て單位とする

葦（パルプ、紙、アンペラの原料）の野積――葦は運河沿ひの沼澤や濕地帶に無限に野生する

運河碼頭の集貨場、穀物の山

黄河

小林伍一郎

一

近代西洋文化を基準として、北支を語つて來た外國人の記述に從へば、北支の水運といふものは問題でない程輕視されたものであつた。それは單的に云へば內水に汽船が運航されないといふ點から出發したもののやうである。他面また民船輸送といふ中世紀的交通の形態に於てさへ北支の水運を輕視しようとする向も可なり多いのであるがこれに對しては、その觀念が飽くまで中南支に對する、又は陸運に對する相對的な場合に於てのみ肯定さるべきものであることを注意しなければならない。

北支の河川は成程水運に對する惡條件を相當多分に具へてゐる。そして中には遂ひに荒廢條件の下に一隻の片舟をも浮べられなくなつた河湖も少くない。永定河の如きは、その代表的なものである。けれども他の大部の河川は平地部の流路は大抵民船を通ずるもので、殊に過去に於ては、殆んどすべて山麓部に到達し、中には山地に溯るものもあつた。そして北支の平原では交通の指導的分野を占めてゐたやうである。

この様な意味で、黄河の水運も世上では事實以上に輕視されてゐる傾向があるが、流域物資の移動に貢獻するところは決して尠くなかつたのである。たゞ黄河の害が頻りに到り、これが防遏に力めねばならなかつたことが、これを語るに遑なからしめたのである。

禹貢によれば、堯が治めた山西南部といふものは西と南と東が黄河によつて圍繞された形になつてゐたから、諸州の貢道は凡て、まづ黄河に入つて、その流に沿うて或は下り、或は溯つて帝京に向ふことになつてゐたのである。卽ち河北からは當時渤海に注いだ黄河に浮べて溯航し、山東は汶水や當時、濟南を通つてゐた濟水——後の黄河にその流路を奪はれた——や、漯水を經て黄河に出たし、中支の東部からは、揚子江や淮水、それから泗水を傳はつて黄河に達して共にこれを溯つた。又、湖南、湖北方面は漢江を上つて陸路洛水に出でて黄河に到り、西北諸省は本流を下るか、然らずば渭水を經て來たといふのである。

その後、中世紀の宋の頃まで中國の帝都は多く黄河の畔りにあつたのは、黄河の流れに倚つて形勢の險要を利用したこと勿論であつて、異る交通手段の連繫地點はまた最も中斷し易き地點でもあるといふ定義からしても、陸運との連絡を兩岸に於て必須とする大河によつて一方を防禦することは效果的である。併しながら、中國を治め、貢稅を集中すべき帝都が、黄河によつたのは、水運を利用する必要があつたとも大きな理由であつた。

漢や唐は關中に據つたが、漢は山東との交通を重視し唐は江淮に求めた。そして共に黄河とその支流渭水を大通として始めて通じ得られるものであつた。また宋が都した汴梁（今の開封）

內容

第五卷　八月號

グラフ

船團輸送……表紙
運　河……1
運河の經濟的意義……5
水路の護り……7
運河に發した街……9
運河に生きる……11
船に育つ……13
操　船……15
輸送機械化……17
水路の浚渫・改良……19
灌　漑……21
民　船……23
造船・修理……25

よみもの

黄　河……26
北支の舟運……29
水上警務聞書……32
清幇と水運……34
鐵道警備の展望……36
定縣實驗區工作……38
華北蒙疆鐵道略圖……41

は、當時に於ては水路四通の便利を備へてゐたもので、事實そこに集まる漕運の路は汴河、黄河、惠民河及び廣濟河と、四つあつた。その中最も重要であつたのは、隋の大運河の南路に似た汴河であつて、上流は鞏縣に至り黄河を經て洛水の遭運に通じ、下流は東南に流れて鄭州、汴京、陳留、寧陵、永城、宿縣から盱眙を經て淮水に達したのである。

黄河以南を本領とする宋朝が南方支那との交通の有利な條件を帝京に用意して置かねばならなかつたことは云ふまでもない。これに對して黄河はこの時代、汴京の北から大名を經て今の衞河々道に似て東北に向つてゐた。

これが河北や渤海沿岸と上流の渭、洛或は汾水の諸盆地とを帝京へ連ねる水路として重要であつたわけである。

かくの如く宋朝以前に於ては、黄河が尠くとも北支的領域時代に於ける交通の幹線であつたのであるが、元朝以來、明、淸共に帝都を北京に選んだために、天下の交通動脈——帝力の搾取路は、帝京と生産地帶たる中南支に向ふ走向に規定され、大運河は却て黄河を横切る形になつた。尤も、この形態に移る過程に於ては、黄河が與へた故道や分流が利用されたのであつて、その自然水路に築堤や水門設置などの工事が行なはれたのが大運河の大部分の水路に當り、たゞ臨淸から漲秋鎭までの會道河が人工によつて開かれただけである。けれども一旦運河と黄河とが交叉することになつてからは、黄河が增水したり、決潰氾濫したりすることは、直ちに運河に支障を來す樣になつた。そこで黄河は漕運を損ねる厄介なものといふことになつた。

明のある論者は、

今日は漕運の道を開通することが最も緊急なことであつて、河を治むることはその次である。然し河を治めなければ漕運の道は通じない……

と、述べるやうになつた。

事實、咸豐六年の黄河氾濫は遂に會通河を泥沙で塞ぎ、大運河もまた南北交通の任を果し難くなり、江浙の貢米は海路を辿ることとなつたのである。

併し、黄河自身の水運は、今日尙完全に亡びたのではなく、數千の民船を浮べて沿岸の物資を運んでゐるのである。たゞ往時、漢、唐や宋の頃の如く榮えず、今や汽船の上下繁き長江の水運の領域に運營される樣になつたまでのことである。そしてこの中世的交通樣式は、近代文化への過渡期而もその初期に入つた北支の社會に於ては、先進の近代社會に見るよりも、遙かに大きな重要さを占めてゐることを注意しなければならない。

二

そこで黄河の水路に就て現況を概觀すると、まづ蘭州——綏遠河口鎭間は比較的に條件よく、蘭州から木の筏の外、牛や羊の皮で作られる皮筒(ビートン)に羊毛などを充塡し、これを筏の樣に組み連ねて皮筏子(ビーファーツ)となし、その上に羊毛、藥草、水烟などを積んで下つて來るのが多かつた。これは包頭や河口鎭にまで來たものであるが、現在戰線に中斷されて殆んど來なくなつてゐる。

この水路の中、寧夏から下流の部は大小四、五種の民船によつて上下出來る。たゞ、途中石嘴子から河拐子までの短區間に急流部があるだけで、大體は河幅も廣く、何處にも舟を着けられる。たゞ溯航する場合は、それを下るに七—八日しか要しない、寧夏—包頭間に一月餘りかゝり、數隻から數十隻を連ねて曳船するが、順風にあつて帆を上げれば舵のみでも溯る。

この區間では、民國七年以來、再三度汽船の運行が試みられたが、吃水がまだ深すぎたり、鋼や鐵材から來る重さが積載能力を減殺したり、馬力も小さすぎたりして、それに一度失敗すれば資力乏しい經營では、自然廢棄されることとなり、豫期の如き成果を見なかつたが、華北交通では事變に置去りにされたものと、新らしく運び込まれたものと併せてプロペラ船三隻を用意して、來るべき航運開通の日を待つことになつてゐる。

尤もこの區間では冬季結氷によつて閉鎖される期間が長い。立冬に流氷を見、小雪には河を封ずとか、立冬より半月經てば舟はやれないといふ俗諺がある樣に、立冬前後から翌春の晴明頃まで航行不能となる。即ち水運期間は約八ヶ月しかない。これでも河套貨物の七割はこの水運によつてゐたといはれてゐる。

次に河口鎭から龍門までの黄河は、山峽の中に入つて曲折多く、流速もまた急であるから、晴天無風の時に始めてよく舵に注意しながら下ることが出來る。而も春季の低水期になれば、岩礁露はれて危險この上もなく、若し中途、風が起れば兩岸は斷崖峭壁をなすところ多くて碇泊すべきところを求め難い。故に此處を下るには十分河狀に通じた船頭を乘せて天候を擇んで決行しなければならない。更に此處を溯る時には流速の方が風力による航走力よ

り大きいことが多く、曳航より外手はない。殊に老牛灘附近は曳航に當り、苦力が辿る岸は兩岸共に懸崖をつたつて越えねばならず、一日僅かに二粁前後を溯るに過ぎぬ。

また龍門に來ると、まづ孟門から龍門峽に入り、龍王漩に至つて落差二十米程の瀑布となる。俗に壺口の瀑布と稱するものである。この下流は、往時瀑布が後退した跡に作られた深く狹い流れとなる。そして禹門に至つて始めて兩岸は開ける。この途中の瀑布の部分は、後世禹門口から東岸の岩石の中を穿つて廣濟渠と呼ぶ人工の運河を通じて、辛じて舟を上下させてゐる。

この場合、下航と雖も曳き手を要するし、溯航に當つての苦勞は並大抵でない。これを見ると人間が水運といふものにどれだけ賴らうとしてゐるかといふことに驚かされる。

禹門を出てからは、黄河の水路條件は甚だよくなり、潼關で渭水を併せて愈々舟船の往來繁くなる。そして陝縣の三門峽に至る間は汽船の運航さへ可能とみられてゐる。

三門峽は、河中に二つの大きな岩礁があつて—下手にも更に二三あるが—そのために河流は三分され、北から人門、神門、鬼門と稱ばれる。人門は今では土砂に塞がれて、平水時には水を見なくなつてゐるけれども、往時はこれも最も容易な水路とされ、手を加へられたこともあつた。

これに次ぐ神門は、現在最も主要な流路となり、辛じて舟を通ずる。鬼門へは僅かしか流れ込まないが、この鬼門は水路曲折して最も險難な處となつてゐて、舟の通過は殆んど不可能である。こゝの落差は四米に及び、古來、黄河水運を中斷するところとして、或は陸路によつて連絡するとか、その上下に官倉を設けて河狀の好適になるを待つに便ならしめるとか、隨分問題になつたものである。そしてこれに工事を加へて上下水運を打通す樣な計畫も屢々立てられたのである。

これを過ぎれば水路條件は綏遠方面と大差なく、濼口に汽船を建造してみたり、濼口利津間の汽船運行を計畫してみたりする人も出て來る程で、黄河の調査研究に汽船を運行したこともあり、本格的の企業を起せば汽船運航可能とみられてゐる。

かくて禹門以下、河口利津までには三千から四千隻の民船が稼行してゐたのである。そして陸運の三倍の輸送成績とみられてゐるが、近時隴海線の開通以來、その勢力を大いに奪はれたものである。併し、この水運の改善補強が加へられさへすれば、北支中原の開發を速めること疑ひないと思はれる。

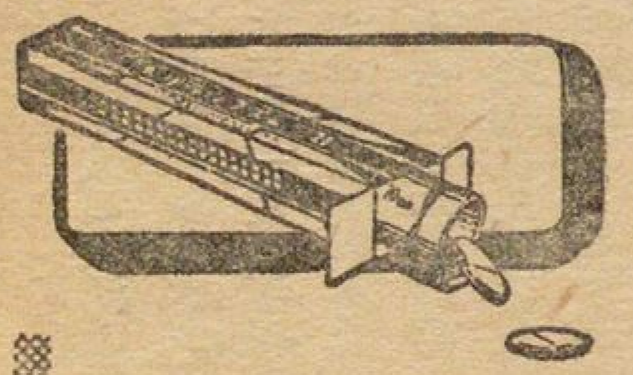
尙、今次事變に際して黄河南流するに至つては、賈魯河の河道に從つて淮河に合することになり、蚌埠を中心とする地區ではやはり民船の上下極めて盛んである。但しこの新水路には、一部急勾配の處があつて、全水路を上下運航することには不便もある。これに對して航路は三百粁程短縮されるが、概して五千分の一や、一萬分の一の勾配を主とする（短區間には數百分の一程度の處もある）濟南流路の方が有利である。このためにも黄河は渤海に導くべきだといふことになつてゐる。

最後に如何なる民船が黄河水運に携つてゐるか、簡單に列擧すると、寧夏綏遠方面では、木筏、皮筏の他、七站船、五站船、高幫船、それから小子といふ限られた型である。

禹門以下の下流では、元船（渭水）、條船（陝縣）、大汴梁牛（蘭封）、楊木頭（東阿）、大鹽、紅船、瓜簍（濼口）、改巧（利津）などを主とする。

これらの民船の型を述べて、黄河の水理の關係なども記載したいが、それは又筆を改めるより外ない。

（筆者は華北交通華北事情案內所員）

連鎖狀球菌
葡萄狀球菌
化膿性
急性
慢性
に依る
諸疾患
中耳炎
扁桃腺炎
【適應症】
產褥熱、敗血症、肺炎、盲腸炎、面皰、丹毒、急慢性淋疾、化膿性婦人科諸疾患等
錠劑（〇、三）
二〇錠
一〇〇錠
トリラックス錠

元賣發造製
東洋製藥貿易株式會社
大阪市東區道修町

北支の舟運

永野宗

何處の國の文化も水によつてひらけ水によつて發達したといはれるやうに北支の文化も亦水、殊に黃河と密接に結びついて發達して來た。しかしそれは治水文化といひ、水との鬪爭史とかいふ如く、單に水の恩惠を受けて來たと許りはいへない。逆說的にいへば、むしろ水に虐げられて培はれた文化が北支の文化であるといふことにもならう。

水の不足に惱み、水の過剩に惱む。すなはち、旱魃と洪水は常に繰り返されて、この民の嘆きを救ふことが歷代の王朝の任務とされてゐた。運河の發達が北支文化の基底をなすが、それは利水と治水のため、灌漑用水としてまた洪水を防ぐためのものであつた。北支の水路も華南に劣らず四通八達してゐるのにも拘らず、古來「南船北馬」といはれて來た。北支の河川が主として治水と利水のために存在して來たといふ事實が「南船北馬」の語を生ましめたのではなからうか。

北支の舟運史を繙けば、舟運の最もよく發達してゐた時代としては清朝に止めを刺す。そして清朝の舟運は清帮と密接な繋がりをもつ。翁、錢、潘の三人が清帮の三祖といはれるが、彼等は山西の五台山の佛弟子で、康熙年代に南方の米の北京輸送を司つたのである。一千餘名の佛弟子に達磨大師の教義を傳道すると共にこの弟子達を漕運の警護と勞務に從事させてゐたが、これが所謂運糧船である。

運糧船は清朝の保護と信任を得て年を逐つて隆盛となり、これに從事するものは清帮となつて一大勢力を培ふにいたつた。

運糧船の隆盛もさう長いものではなかつた。同治十三年（約六十數年前）招商局の設立に伴ひ舟運による南方米の輸送は海運にとつて替られ、運糧船百有餘年の歷史はかくして閉ぢられてしまつた。

運糧船がなくなつたにしても舟運が全くかへりみられなくなつてしまふものではない。交通施設の不備は舟運を愈よ必要とした。百有餘年間培はれた清帮、民船業の力も根強く、農產物の輸送を中心に舟運業が營まれて來たのである。

その後西歐文明の侵潤は機械船の運航にまで進めたのであるが、運糧船當時の如く舟運を考へて河川が運營されないことと資本の弱少、經營の不備のために機械船の運航計畫は悉く失敗に終つたやうである。それでも事變前天津を中心とした舟運路は五千粁に達し出廻る物資も年額二百萬瓲を超えてゐた。

支那事變の勃發は北支の舟運を滅茶苦茶にしてしまつた。これは奥地の民衆に多大の苦痛を與へたものであつたが、新しい舟運を築き上げる上にはむしろよかつたかも知れない。大東亜戰爭の一大兵站基地としての北支、その北支の舟運は鐵道、自動車、港灣と密接にむすびついたものでなければならない。古い絆でがんじがらみにされた北支の舟運を近代的運營に移行させなくてはこの重い負托に應へては行けない。支那事變がこの絆を絶つ端緒となつたことを思へば、さうも考へられるのである。

今北支の内河水運は軍命によつて華北交通に委託され、鐵道、自動車と共に三位一體の運營の妙を發揮してゐるが、華北交通が始めて舟運に手をつけたのは昭和十四年七月であつた。

奥地住民の要望に應へて事變以來中絶してゐた内河水運事業を急速に復興させると共に、鐵道、自動車と密接に連繫して物資の圓滑な流通を圖ることを目的として先づ濟南で汽船を買收し昭和十四年九月から小清河の旅客輸送を開始したのである。その後天津に於ても市政府の汽船、施設を傘下に收め南運河、子牙河、東北河で旅客輸送を始めたが、實際に内河水運の一元的運營に手を染めたのは昭和十五年に入つてである。

從來民船業の統制に當つてゐた中國内河航運公會が十五年三月解消すると共に軍は華北交通にその人と施設、財產を吸收させた。更に航運の指導統制とか、水路警備（河防隊）、行政代行業務（航行許可證の交付手續、船舶の登記手續、船舶並に貨客の檢査）を繼承させ、同時に國際運輸（現在の華北運輸）の經營してゐた民船航行權も華北交通のものとしたのである。これで民船の統制形態も整ひ、また北支主要河

川に於ける民船に依る貨物輸送を開始して、北支舟運の全面的統制が實現した。しかし全面的統制といつても當時一部民間の自由運航も認めてゐた。この自由航行する民船は統制運營を亂して物資の出廻りを阻害する上に、屢々利敵行爲を敢てするのである。このため昭和十六年七月軍は佈告を以て內河川輸送の實權を華北交通に附與し、名實共に、北支內河川の高度統制が實現し、劃期的な民船の集團による强力な統制運營が見られるにいたつた。

華北交通の船團が定期的に運航してゐる河川は、東北河、北運河、保津運河、子牙河、南運河、黃河、大運河、小淸河、鹽運河の九大河川で、營業航路粁程は約四千二百粁に達する。この營業粁程を著業當時に比べては雲泥の差があるが、營業成績も次第に事變前の額に近づきつつある。しかし北支の內河水運は極めて粗放な運營に任せられてゐたものであり、經營方式だけ高度の近代化に進んでも舟と人そのものはそのまゝに止まつてゐるのが現在の實情である。事變によつて荒廢した河道の修復も思ふ樣には進んでゐない。しかも之に治安の不良が加はる。この條件下にある華北交通の水運運營の樂でないことは容易に考へ得られることでもあらう。

北支の舟運運營上幾多の難點があるが、これはそのまゝ北支の內河川の特異點ともいへる。先づ採り上げられるのは結氷期間の長いことである。北の方では十二月、一月、二月の約三ヶ月間、南の方でも一ヶ月半は結氷のために運航が出來なくなる。

長期間の結氷に加へて降雨量が普遍的でないことのためにも運航は制約を受ける。年降雨量の七十パーセントは七、八、九の三ヶ月に集中してほかの月には殆んど降らない。從つて四、五、六の三ヶ月は渴水期で積載量を減らして舟足を輕くしなければならない。雨期の七、八、九の三ヶ月にしても、逆に增水のために積載量を減らさねばならないのである。これは北支の橋が悉く跳ね上げるやうに出來て居らず、固定式なので、百パーセントに積んでは橋を潜れないことになつてしまふからである。從つて百パーセントの積載效率を示し得る時は年に僅か三ヶ月しかないことになる。

渴水期には更に灌漑のために水をとられてしまふ。雨量の少い北支農村にとつて河川灌漑は最も重要なものであり、この人工灌漑なくして北支の農業經濟も亦考へられない。農產の確保は北支農村に課された大きな使命であるが、食糧增產計畫と舟運との調和をどうするか、今後に殘る大きな問題であらう。

河道の荒廢も甚だしい。淸の時代には河道の浚渫を屢々行ひ、李鴻章は多期には兵士を動員して大々的な河道浚渫を行つたともいふ。しかし民國に入つてからは全く自然に放任して來た上に、事變の勃發があり、河道は荒れ果て各所に淺瀨をみ積載效率を低めてゐる。今建設總署（華北政務委員會）の手で河道の修理が行はれてゐるが、從來からの行掛りもあつて、治水、利水にだけ重點が置かれ、水の保持には餘り力をいれてゐない。舟運を考へての河道改修が最近にいたり漸く採り上げられて來つゝあるので、今後には期待出來るにしても、現情には頗る遺憾な點が多いのである。

淺瀨と共に屈曲部の多いことも舟運の發達を阻害してゐる。華北交通の理想とするところは全舟運の機械化にある。水深がなく、屈曲が多ければどうしても近代式汽機船による曳船は難しくなつて來る。定期船團の運航とはいひながら、風あれば帆をあげ、無風の時には人力で曳航するのは如何にも北支らしい風景とはいふものの、內河水運の運營上は面白くないことである。

この上に治安の問題が加はる。鐵道と並行してゐる河川の治安はいゝが、さうでない河川は未だ治安が確立されてゐるとはいへない。かうした奧地では、從つて經濟機構も確立されて居らず、物資の出廻りも不活潑である。しかし華北交通の水運運營は採算を度外視してしかも生命を賭しての運營を要請されてゐる。事實多額の警備費を支出するにしても、定期船團を運航して行くと自づと治安も良好となつて來るのである。

北支の內河川は古くからひらかれ、產業文化の源泉となり、水運の動脈となつて現在の北支を創造した事實は否めない。河川の流域は二千四百七十六陌といはれ、その流域、背後地はともに農產、鑛產を始めとして頗る豐富な資源を擁してゐる。すなはち、冀中、冀南の穀倉を形成し、鑛產に於ては開灤、焦作、中興、棗莊等の炭礦の石炭埋藏量は三十億瓲とも稱されてゐる。このやうな尨大な資源を開發するのには單に鐵道や自動車の輸送力にばかり賴つて居られるものではない。內河水運の發達に俟つものは實に大きく、輸送力の急速な擴充强化は現下の急務ともされる。

華北交通はこの樣な要請に應へて舟運經營の合理化を圖るために昭和十六年、四月北支內河川五年計畫を樹立した。この計畫は本格的貨客輸送の完璧を期するもので、大使館の物動五年計畫に卽應し、建設總署の北支河川處理五年計畫に對應するものである。計畫の要領は、汽機船運輸の健全な發達を圖ると共に民船の全面的統制と運營を行ふこと、民船の全面的統制にあたつては主要地に船主公會を結成させて指導すること、船舶整備計畫を樹立し、汽機船を建造して民船を援用しつゝ物資輸送の强化を圖ることである。水路の建設は專ら建設總署の擔當するもので、華北交通の擔當するものは水路の小規模な改良と浚渫である。從つて華北交通の計畫に於ては船舶整備の達成に重點が置かれる。船舶の整備は船舶の機械化と民船動員體制の完成とである。

北支の舟運の如く船團輸送を行ふ場合には汽機船をいれて艀船を曳航する方が遙かに合理的であることは敢ていふまでもあるまい。數回行はれた曳航試驗の結果によれば、輸送の迅速、輸送貲の節減、輸送能力の增大、治安確保上の效果等利點は實に大きい。たゞ北支の河川の特異性たる淺瀨の多いことと、屈曲部の多いこと等のために特殊な汽機船だけしか使用出來ない難點がある。

全河川舟運の機械化、これが華北交通の內河水運運營の理想である。貧弱な北支の河川に浮び得る汽機船をどうしても生みださねばならない。かうした條件に適つた汽機船が昨秋試驗的に造船されたが、これは極く淺吃水の船で、屈曲部の多い河川に於ても多數の艀を曳航出來るだらうといふ試驗船であつた。全長十九米、吃水七十二糎、馬力百馬力の性能をもち、三百トン（艀六隻位）の艀を曳航して時速六粁を出せる。この試驗船にも多少の缺點がなほ存するが、現狀に於ては大凡滿足すべきものであつた。

全河川の機械化は單に汽機船の配置によつて出來得るものでなく、むしろ水路の改良に俟つ點が多い。建設總署と協力して全水路啓開は豫定通りの進捗をみ、運航粁程の伸長も逐年著しいものがある。理想圈への到達はさう短時日に於て果されるものではないにしても、單なる理想に終ることは決してないであらう。

本年度から華北交通では經營の合理化を圖るために重點河川を指定した。重點河川は河川の狀況、出廻り物資の量、治安の良否の三點をにらみ合せて指定したもので、これらの河川に對してすべてに於て重點的に積極的な經營を行ふものである。重點河川となつたものは

東北河（天津——新安鎭間）
北運河（天津——楊村間）
保津運河（全航程）
子牙河（天津——衡水間）
南運河（天津——南舘間）
小淸河（全航程）
大運河（運河——淮陰間）

で、その中汽機船の配置してあるのは東北河、保津運河、子牙河の三河川である。

淸幫の勢力は昔ほどではないが、若干殘つてゐる。この若干の殘つた勢力を指導して新しい形に纏め上げてゐるのが船主公會である。華北交通が民船の全面的統制に著手した時、華北交通と表裏一體をなすやうに設立されたものである。これは主要地十三箇所に設けられ、組合員の相互扶助、福利增進の機關であるが、華北交通の傭船調達蒐貨の機關でもある。これに加入するものは淸幫でなければならないとしてゐないが、加入してくるものは殆んど淸幫である。

華北交通が舟運經營上重點を置くものは國策的重要物資及び一般民需の大宗たる貨物の積極的輸送である。更に輸送力の確保のために河川の改良に順應して汽機船、艀を擴充强化すると共に、船主公會を育成强化し一般民船の確保につとめる。また鐵道、自動車と緊密な連繫を保つて圓滑な物資の交流をはかつて行かねばならない。極端な惡條件下に長く放任された北支の河川ではこれはなか〳〵容易に行はれ得るほどのものではない。しかしそれは斷じて果されなければならぬのである。

現在北支の河川は小型船の輸送だけに適するが、將來は河川の改良に伴つて大型船も使用されるにいたるだらうし、民船中心から汽機船中心に移ることも遠くはあるまい。更に北支の河川は悉く海洋に續き、將來海港と結ばれる性質をもつてゐる。

華北交通は水陸一貫經營を行ひ、鐵道、自動車、水運の三大交通部門を一手に掌握して三位一體の運營の妙を發揮してゐるが、昔の舟運の改良ではない新しい舟運、北支全河川の機械化が實現するのもさう遠いことではあるまい。それは北支の戰力の增强であり、大東亞戰爭完遂への逞しい前進であることを特に强調したい。

（筆者は華北交通資業局員）

水上警務聞書

堀田香苗

鐵道警乗員と違つて、水上警乗員は常に危險に曝されてゐる。鐵道では、いざ匪襲とか何とかの事故が生じると先づ警乗員は乗客を制止して、扉の外へ出さぬことが當面の處置としてとられるが、水上の場合は全くそれと違つてゐる。その差は一口に云ふと、鐵道警乗よりはむしろ攻勢的であることである。

卽ち警乗員は、運航に際しては、船團に先行して陸上を警戒にあたる。陸上より水面の非常に低い運河のこと故戰略的に見て非常に不利であるから、斥候である陸上警戒の警乗員はさうした不利な戰鬪を避けるためにも不眠不休で陸上警戒にあたるのである。そして、いざ敵襲の場合は彼ら警乗員が進んで敵を迎へ擊つといふ、つねに前進的、攻戰的であるのは、水上交通に於ける警務活動の特性である。

これら警乗員は、指導員が日本人であるほかは中國人であるが、その團結力の強さと戰鬪力の旺盛なることは一驚に價するものがある。以下如何にして彼らが鍛へられつゝあるかを紹介することにしよう。

先づ特筆されるべきは、彼らの生活は軍隊と同じやうな組織と訓練の中にあることである。教育は戰鬪本位であつて、見敵必殺こそ水上警務員教育の本義であるといへよう。これは一船團の運航にあたつては、治安完からざる地域を行く關係上、戰鬪の二回三回は覺悟しなくてはならないし、而も鐵道沿線より遙かに離れた僻地のこと故、應援はきかず、對敵の場合は正に擊滅か、全滅かの二つの途しかないのである。いはゞかうしたぬきさしならぬ狀態が、自然に彼らを鍛へ、何ものにも屈せぬ精神を育むのである。

×

彼等警乗員の年齢は十七八歳より三十歳前後で、教育は極めて低く、文字を解さない者も相當にゐるといふ程である。この點に於ても鐵道警乗員より質は落ちるわけであるが、かういふ彼等が劣惡な武器を驅使して、よく敵を擊退し得るといふのは指導の賜と、不屈の精神力によるものである。

尙、彼等の武器に對する愛着は異常なもので、閑さへあれば、銃器の手入に餘念がないといふのも肯けるではないか。

日常生活に就ては、軍隊とほゞ同樣であるから敢て書くまでもないが、この中で特記しなくてはならないのは、日人も華人もが共に起居し、同じ釜の飯を食つてゐるといふことである。

日本人は指導員だからといつて特別待遇を受けてゐるのではない。彼らと共に起居し、喜びも悲しみも共に頒ち合つてゐるのである。この日華人の協力なくしては、困難な水上警務は一日たりとも遂行出來ない。日人と華人との間に「水」が入つては絕對に駄目である。これは水上警務だからといふ洒落では決してない。

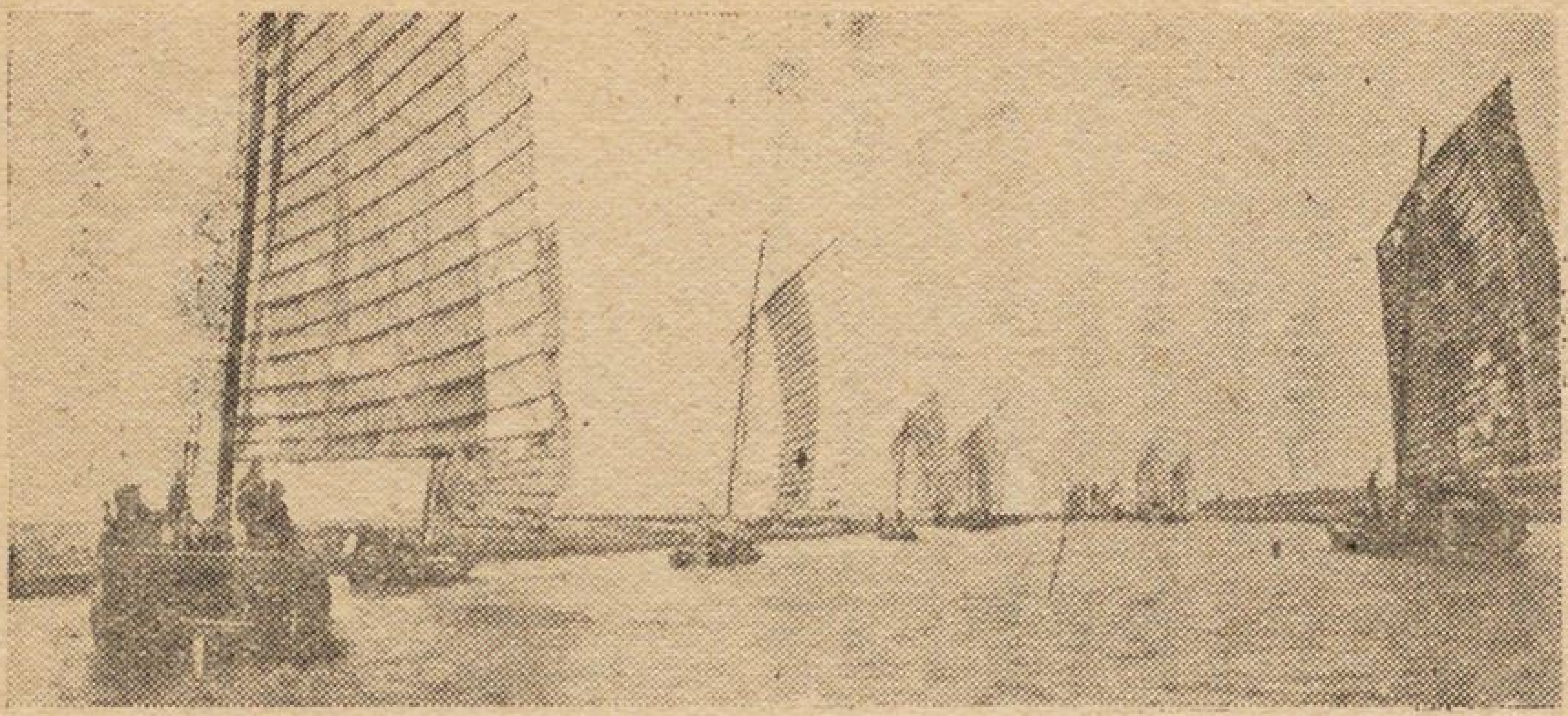
水上の警務段は、天津、濟南の分所を合せて十數ヶ所あるが、何れもその組織なり訓練なりは大差はないといつてよい。日人指導員は、非常に少數なところもあるが、中國人の自主性も重んじ、その運營は日華人共同の職場にあつて、たしかに模範的なものであらう。天津水上警務段の第一分所の日課を見ると、左の通りである。

起床七時、點呼七時一〇分、朝食九

時三〇分、夕食一七時三〇分、日夕點呼二〇時、消燈二二時。

×

このやうに訓練された警乘員は、いよいよ船團に乘込むことになるが、警乘といつても先に述べた陸上警戒にあたる者と、船團に待機する者とに分れてゐる。



物資輸送を主とするのは、〇〇隻乃至〇〇隻の大船團であつて、警乘船はこれに〇隻位附いてゐるのが普通である。嚴寒、酷暑を通じて、默々と挺身する警備員の姿は全く水上交通の守護神ともいふべきである。

さて襲擊されると（陸上警戒が出てゐるから奇襲されるといふやうなことは殆んどない）先づ陸上警戒員が先に戰鬪を開始する。大抵の場合はこれで擊退してしまふが、〇〇隻も連なる大船團になると、警乘員の苦勞も鐵道警乘員とは全く類を異にして、實に筆舌に盡し難いものがある。

次に水上生活を一週間も十日も續ける上に困難なのは食糧である。併し、主食物は大體積載してゆくし、野菜などは現地調辨でやつてゆくから問題はないとしても、困るのは何といつても飲み水である。もとより水を滿載してゆくことは出來ない。そこで、やむなくミヤウバンを入れて河水を飲み炊餐をやるのであるが、內地の川と違つて北支の泥水のやうな運河の水であるから、一寸耐へられない。しかし、長年の訓練といふか、馴れといふものは恐ろしいもので、かういふ不衛生極まる設備の中でも病氣に罹つたり、體に故障が起きたりすることは稀であるといふから驚嘆するのほかはない。

尤も、一つ特殊病がある。恐らくこれは水の關係からと思はれるが、體の全體に赤い斑點が到るところに出來ることである。醫師が調べてみても原因は今のところまだ判明しないといふがこれを水上警乘員の間では「船團病」と呼んでゐる。

×

匪襲は、六月頃までは少いが、多いのは十月、十一月の收穫季である。

昨年十一月は、一晩に二回も襲擊を受けたが、かういふ時は敵の裏をかくため、運航作戰の妙を發揮することになる。かうして匪狀の惡い地區も、まんまと通過して行く。

×

以上で概略的ではあるが、北支水運の特異な水上警乘員の仕事を記述したが、結論すれば、一見非常に單調で、（事實速力の遲い船であるから單調さは言語に絶する）平凡に見えるが、彼等警乘員は、その平凡さ、單調さと戰ひ匪賊と戰つてゐるのである。しかし讀者はこゝで記憶していたゞきたい。それは匪襲よりも寧ろその長々と續く單調さと平凡さに耐へることが如何に困難であるかと云ふことである。

（筆者は華北交通天津鐵路局員）

さくらフヰルム
躍進日本の代表的フヰルム
一般用に　スペシアルクローム
戶外用に　パンクロF
夜間用に　パンクロUSS

清帮と水運

田中　整

まへがき

清帮は一般には青帮とも書かれ又「在家裡」とも言はれ洪帮と共に最も勢力ある支那秘密結社の一つであるがその眞相に就ては所謂秘密結社で判然としない、隨て以下述ぶる所も亦臆測の域を出でず獨觀みの譏を免れないがその概貌を知る資ともならば幸甚である。

由來と沿革

元來支那の秘密結社なるものの大半は民衆が政府の秕政官憲の壓迫に對抗し團結力を利用して相互の防衞と生活の擁護を圖らんとして生れたもので清帮の誕生も亦さうした動機からだと見られるが其の構成要素である無智蒙昧な民衆の結集力强化の方便として神や佛の神祕力を利用し莊嚴なる儀式制度を設けて信仰的に民心を把握し更に外力の侵犯に備へる爲に祕密結社の制を採用したものと考へられるが漕運（水運）と云ふ實際業務の上に之を運用した所が清帮の特徴であり標題の如き水運との關聯を持つた所以である。

＊

清の雍正三年今から約二〇〇餘年前に翁、錢、潘なる三人の者が清の漕運總督から清朝に貢納する南方米の北京官倉への漕運を引受け運送組織を編成したが、之に從事する舟方共を精神的に統御する方便として神佛の神祕力を利用せんとして三教歸一（佛儒道教）を標榜して萬人の信仰を統一し、父子（親子）の制に依つて階級制度を確立し義俠を以て帮是と爲し師徒の間は親子、同志の間は兄弟の關係に於て夫々相互扶助し合ふと言ふ制度の下に所謂十大帮規と稱する嚴しい掟を以て規制せる結社を創設したのが清帮の濫觴である。

正式には安清帮（清朝を安んずる意—擁明の洪帮から離脱して清朝に歸順したことに因るとも云はる—帮は黨、組の意なり）と稱され此の三人が清帮の始祖であり所謂三祖と稱して最も尊敬されてゐるのであるが、更に之を傳說的に探索すれば其の緣起は遠く達摩大師に溯り之が最も通用されてゐる由來である。

これは三祖が神佛の神祕力利用の方便と帮を歷史的に粉飾せんとする着意から適宜考案された由來だとも云はれその眞否は判然しないが何等かの緣由に結ばれてゐるものと思はれるので、蛇足乍ら其の概要を摘記することにした。

卽ち梁時代に印度から達摩大師支那に渡來し面壁九年の苦行を積んで臨濟宗を開教したのを初祖とし以下五祖を經て明の永樂年間七祖に當る金祖淸源に至つて現在清帮の用ひてゐる字輩（班）二十四字輩を創設し自ら清字を採り清門（帮）第一代の始祖と云はれたが金祖は又當時運糧督理官として漕運に功績があつたので運糧の始祖とも云はれてゐる（現在生存してゐる一番古いのが第二十一代目で大字班（輩）と稱されてゐる）。

金祖の門弟清門第二代目の祖師を羅祖と稱し淸の順治三年苗族の亂に際し佛法の力でこれを感化平定して非常に偉功を立てたが當時討伐軍の大將であつた陸陸と云ふ人が羅祖の德を慕つて入門を乞うたが入れられず所謂「紅雪齊腰蘆穿膝蓋」（面白い故事あるも省略する）の苦行を積んで漸く入門を許され道元の號を賜はり佛法に精進してゐたが淸の康熙年間回敎徒の亂起るや羅祖の命を奉じて北京に出で同じく佛法の力で回敎徒を退散させて了つたので皇帝は非常に喜び前官の總師を賜つたが受けず「不日海晏河淸」と安淸運糧のことを豫言して抗州へ歸つたが其の途次或る河岸で翁、錢、潘と云ふ三人の男から「五台山那王寺に行き度いが河が渡れず困却してゐる」と云ふことを訴へられ法力で天橋を現はし三人を渡して姿を消したが三人が五台山に着くと前の人が再び出迎へて法號を與へ修業させたと云はれ此の陸陸は陸祖と稱され淸門第三代に當

最新
男性賦活ホルモン
Ⓟ
セキマイン
鯨睾丸製劑
製造發賣元　大日本製藥株式會社
大阪市東區道修町　支店　奉天市大和區浪速通

る譯であるが法號を賜つた此の三人こそ翁徳正、錢徳慧、潘徳林と稱して前述清帮の三祖であり金祖から第四代目に當り何れも徳字班と呼ばれてゐる。

清帮と水運

翁、錢、潘の所謂三祖は、陸祖から「金祖清糧の偉業に倣うて報國の誠を盡すと共に道を傳へて祖師の香煙を續けて教を絶つ勿れ」と命ぜられて雍正三年清朝の漕運義士募集に應募し北京に出て運糧報國を誓つた所皇帝は大いに喜び四品督糧官を賜つたので三人は運河の開鑿浚渫、糧穀倉庫の建設、運糧船の建造を計畫し一方運糧從事員統制の爲山門(佛門)を開き徒弟を收め三教歸一の義俠成佛を以て安清の道と爲し業務に從事せしむると共に傳道に力めんことを上奏勅許を得て夫々準備を進め翌四年から運糧を開始したが、之抑々清帮と水運の聯關關係發生の紀元である。

三祖は夫々徒弟を收めて第五代文字班に傳へたが翁、錢の二祖は何時の間にか行方を消し潘祖一人丈殘つたが乾隆年間漕運に從事中烈風に難船して殉職し抗州の啞叭橋に葬られた(現今の清帮は殆んど潘祖系なりと云はる)因に當時の漕運關係施設と帮の組織を附言して見れば倉庫一〇八棟、碼頭七二個半、船九九、九九隻半、水閘大七二個小七二個、帮(組)六大帮一二八小帮であつた(端數緣由省略)

*

清帮と水運はかうして非常な勢ひで發展したが、清の咸豐四年長髪賊の亂で船は大半燒拂はれ運糧も中絶の形となり爾來祖師の香煙を斷つこと四〇年に及んだが光緒十三年皇帝の計畫に依る漕運の官營復活に際し清帮は六帮を編成して之に參加したが光緒二十六年團匪事件起り西太后西安蒙塵の際糧米の半分西安運送を命ぜられ他帮は之に應じなかつたが清帮は命に服して無事任務を果し西太后から褒められ他帮は解散を命ぜられ清帮の六帮丈は殘つたのであるが光緒二十八年革命に因る清朝の廢朝と共に貢糧漕運の必要もなくなつたので清帮の漕運業務も亦隨つて廢止となり帮員は陸に上つて夫々職業を求めることになつたが法道に結ばれる結社形體は依然殘存し嘗て船中の香堂で嚴修された入帮式も自然陸上で行はれることになつたので之を後に旱碼頭(陸の港)と稱するに至つた、又清帮の別名「在家禮(裡)」も此の陸上家屋内で禮式が行はれる所から來たものと云はれ、現在清帮間には此の「在家禮」が通用され清帮の名は敬遠されてゐる樣である。

清帮の近況と將來

運糧組織解消後の清帮は在家禮の名の下に依然團結して陸に河に尙相當の勢力を張つてゐたが鐵道海運の發達と運河の淤塞とで航運は日々衰微し嘗て勢力のあつた親分も段々死亡して昔の面影を失つて了ひ現在は第二十一代の大字班が最先輩であるがそれも僞ものが多くて眞實の大字班は極めて寥々たる狀態にあり次で第二十二代通字班を實質的元老格とし其の次が第二十三代の悟字班で中年層に多く最も新らしいのが二十四代の學字班(字輩の最後)で年少者が多い。

*

上述の如く各字輩尙存續し現在總員五―六〇〇萬人と稱されてゐるが組織の解消と大親分の死亡に因つて往昔の如き團結力は殆ど消滅し政治的野心を藏する多數の僞大字班等が群立割據して互に勢力を誇張し合ひ其の間統一的結合力毫も見受けられず又親分は子分を子分は親分をと互に自己生活擁護の方便に利用し合ひ昔の帮是を貫く義俠(義風と稱す)や親子兄弟の情理的結合等全く地を拂つてゐると見られるのが現今清帮の眞相かと思はれる。只地域的に見て北方よりも南下するに隨て幾分昔氣風が强く殘つてゐる樣に見受けられ上海に於ては特殊事情(杜月笙等を中心とする財力と租界官憲の政治的方便上の特殊許與に依る結託關係)の下に侮り難き勢力を張つてゐた樣だが之も租界の消滅や財閥勢力の重慶遁竄等特殊事情の消滅に因り衰滅の一路を辿るものと思はれる。

然らば現在の清帮と水運との關係は何うかと云へば之亦評價の價値なきものと見られる、數年前の調査に據れば天津に於ける水運關係者の中に占むる清帮(僞ものもある筈)の割合は僅かに二〇％程度に過ぎず而も嘗て彼等が誇張した結社的特殊勢力に依る水路の匪害排除即ち自力警備運航等に就て見るも現今の治安狀勢下に於ては遺憾乍ら無能力なりと言はざるを得ない情ない實情である(局地的特殊現象はあらんも)

*

斯うした觀點からして清帮そのものの將來は何うか？ 其の勢力の活用法如何と言ふに皮相の觀察かも知れないが清帮そのものは此の儘放任して置けば結社的勢力も宗教的道義も環境の新情勢に揉れて衰退の一路を辿り軈て消滅の運命を辿るものと思はれるが過渡的にその結社勢力乃至宗教的道義心の活用を圖らんとするならば從前の祕密結社清帮なる觀念に執はれることなく一種の宗教的社會教化團體なりとの新觀念の下に例へば新民會の分會の如き形に於て彼等が誇張し來りし宗教的道義を復活昂揚せしめると共に新しい政治的社會的思想の注入を圖り而して換骨脫胎せる新社會教化團體たらしむ如く善導利用すれば散漫なる一般民衆の教化運動に比し比較的容易に相當の效果を擧げ得るかと思はれるが水運事業等に彼等を重視することは却て多數帮外業者との摩擦を招來する虞なしとせず殊に政治的に往昔の如き特殊勢力の過大評價利用を企圖するが如きはその現實より觀て實效を收め得なかつたのみならず明朗政治を標榜する現代政治の本質に背反するものとして贊成出來ない所である。

鐵道警備の展望

直田久太郎

北支敵軍の系統は、蔣系中央軍及び共産軍を主流とし、他に少數の雜軍や土匪が蟠居してゐる。

中央軍は、開封西南地區に於ける第一戰區（司令蔣鼎文）、山西省南同蒲線西側地區に餘命を保つ第二戰區（司令閻錫山）、山東省膠濟線南部に蟄伏する魯蘇戰區（司令于學忠）、蒙疆包頭南方黃河南岸地區に在る第八戰區（司令朱紹良）等であつてその兵力約〇〇萬と稱せられ、今尚執拗に北支奪回を夢想し、延いては直接間接に北支鐵道運營に妨害を試みつゝあるのである。

而して是等華北蔣系軍は、舊東北系の將領が多數あつて、近時抗戰の無意義を語り飜然和平陣營に投合して來る者が續出してゐる有樣で、抗戰陣營にも一大動搖を來しつゝあるのである。即ち曩の冀察戰區副司令兼第一戰區第二四集團軍總司令龐炳勛上將、新編第五軍軍長孫殿英中將以下七萬、並に魯蘇戰區魯南總指揮榮子恒中將以下〇萬等の和平陣營參加は、如實にこれを物語るものであつて、これがために在華北中央軍の抗戰力は著しく減殺したのみでなく、舊東北系殘存軍及び其他の中央軍に對しても今後の進路を示唆するものと判斷せられ、從つて皇軍屢次の作戰と、これら內部的原因による兵力の損耗は、果して抗戰を何時まで呼號し得るであらうか。

次に、朱德を軍長とする共産軍は、謂ゆる第十八集團軍であつて通稱八路軍と呼ばれ、兵力約〇〇萬、北支全域に亙つて蠢動し、政治工作を以て無智な民衆を煽動し、後方治安の攪亂に狂奔してゐるのであるが、これとて今回の國際共産黨の解散、延安政權の解消等の關係もあり、その合作は期し得らるべくもなく、むしろ重慶との相剋は今後益〻激化を豫想されるのであつて抗戰力の凋落は既に蔽ひ難き事實と認められるのである。

＊

是等在北支敵軍の戰法を考察してみると、支那事變初期に於ては敵匪團は常に集團行動を以て正攻的戰法を用ひてゐたのであるが、皇軍の不斷嚴肅な作戰の鋭鋒を避けて漸次その態様を轉換するに至り、遂に今日に於ては凡ゆる詭道を弄して抗戰の迷路を彷徨してゐるのである。而してこれ等、敵の戰法はその觀點を異にするに隨ひ百種千態であつて枚擧に暇ないのであるが、共産軍の人民戰線構成による反抗戰法を除いては概ね次の三種に區分することが出來るのである。

欺瞞戰法

假設の情報、虛僞の動靜等を作爲して相手の注意をこれに牽制し、その虛を衝かんとする戰法で、一名東擊西擊戰法とも稱してゐる。例へば甲方面を襲擊すると流言して、乙地方面を攻擊し、或は某期間內に襲擊すると宣傳して、その期間滿了後に實際行動を採つたり、また甲地を襲擊するかに陽動して俄に乙地に轉進し、或は我が方類似の服裝を使用し、乃至假言を用ひて我に接近し、突如攻勢に出ると云ふやうなのはこの欺瞞戰法に屬するのである。

謀略戰法

敵がその謀者、工作員、破壞隊員等を加害目標に接近せしめ、巧妙な手段を以て穩密裡に破壞襲擊を敢行する戰法であるが、この戰法をより效果的ならしめるため、豫め利敵協力者（通匪）を獲得懷柔し、或は目的物（施設）關係者として採用され乃至は策を用ひて人的結合を弛緩させ、背反するに至らしむる等、謀略行爲の遂行は孫子以來中國敵人の最も得意とするところであつて、意外の場所に意外の狀態を生起する恐るべき戰法である。

奇襲戰法

防者の備へ薄いのに乘じて不意に攻擊する戰法で、換言すれば恰も寢耳に水の狀態に於て戰鬪行爲が開始されるのであるから、攻者は終始意の如く行動し、從て防者は狂瀾を既倒になし得ないのが通例である。

敵は此の戰法を遂行するため、多くは極少人員を選拔して薄暮に乘じ、蟠居地を出發し、途中道路村落等、行動暴露の虞れのある箇所を避けて田野草原を通過する等、行動秘匿に細心の注意を拂ひつゝある樣で、一度目的地に殺到するや暴戾正視に堪へぬ殘虐を恣にするのである。

＊

敵狀の概要と、その戰法の大要は以上の通りであるが、北支敵諸軍の抗戰力それ自體は前述の通り日を逐うて低下の一路を辿りつゝあるのであつて

些もこれを過大視するの要はないとは云へ、また毫も輕視することも許されないのである。

即ち、敵は漸次制服から便衣に、重裝備から輕裝備に、また集團武力戰より少數謀略戰に轉化しつゝあるのであるが、これを單なる餘喘的足搔きとのみは見られないのであつて、これがため、北支鐵道運營に聊かたりとも損失を被ることがあるとするならば、鐵道運營にそれだけ支障を與ふる結果となり、延いては決戰日本の國策推進に影響を及ぼすことになるのである。

然らば、斯る環境諸情勢下に於て、北支鐵道警備は如何に推進せられてゐるか、玆に更めて云ふまでもなく、これが直接保護警戒は皇軍指導の下、華北交通自體の保有する警務機關を中心とし、沿線中國側警備機關等の協力を以てなされてゐるのであるが、華北交通會社はこれがため本社に警務局、各鐵路局に警務部を置き、各所轄區域内警備業務の企畫統制指導を掌らしめ、更に沿線主要站所在地に警務段、各站毎に警務分所を配置してある外、站間の重要な鐵橋及び警戒上の要點に各監視哨を常設する等、直接防衞機關を整備してゐると共に、本社に警備犬育成所を設けて優秀犬を練成し、これを各鐵路局警備犬班に配屬して人的警備の補助に充て、相當實績を收めてゐる。

＊

次に鐵道警備の理想とするところは鐵道沿線一帶に一匪一敵の存在と雖もこれを許さないと云ふ狀態の具現であつて、その要件として考へられるものは（一）肅清討伐の徹底、（二）沿線村民の心からなる鐵道愛護、の二つである。而して前者は皇軍の主として擔任し、着々顯現せられつゝあるところであり、後者は謂ゆる世上周知の愛護村地帶の構成なのであつて、會社が歲歲尨大な豫算を捻出し、また警務從事員が、日夜不眠不休の警戒に加ふるに職任として沿線三千萬愛護村民衆の敎化宣傳に專念してゐる所以に他ならないのである。

＊

會社警務機關の攻勢警備の大要は、叙上の通りであるが、敵に對し長狹なる防禦面を暴露してゐる鐵道警備は單にそれのみでは萬全を期し難いのであつて、警務機關本然の任務から云つてもむしろ靜的警備、即ち站舍線路列車の直接警戒を特に嚴正に行なはねばならないのである。而して此のことは敵の攻擊力が極めて微弱であつて、唯一瞬の油斷さへ戒むるならばその得意とする奇襲戰法の如きは容易に完封することの出來る關係にある點から考へても分ることである。

然し乍ら、鐵道の防禦面には警務從事員の配置なき箇所もあり、配置があつても人員微少なのを通例とし、殊に夜間、就中深夜に於ける透視力の減耗は例へ油斷のない警戒狀態にあつたとしても敵を遠くから發見することは不可能であつて、玆に更に人力の不備を補ふ施設が必要である。

即ち北支旅行者の誰もが見受ける樣に、鐵道は到るところ「バリケード」「トーチカ」「防護壁」等を以て守られてゐて、內地、朝鮮や滿洲等に見る如き驛頭の池泉草花の美しさに及ばないのは固より、樹木の整理淸掃等、凡そ旅客の快適を目的とする風物は全面的に犧牲にされてをり、また建物の配置、構造などに於ても日常業務上の不便不自由は敢て眼を閉ぢても警備の目的を達成するに便であるやうに工夫を凝らされてゐるのである。

併し又見方によつては、北支の鐵道沿線の原野では、農作物の風に靡く葉の中に驢馬は獨りで水を揚げて居り、牛馬家畜は放養され、誠に和やかにも見えるが、さて一度夜の幔りが下るか又は狀況が惡化すれば、これが直ちに百鬼夜行、修羅の巷と化することは御承知の通りである。それでこそ大にしては萬里の長城とか所在の省城縣城とか、小にしては村鎭、はたまた個人の住宅も皆それ相應の城壁に守られて居り、その上到る處に見張りの望樓が物凄く聳えてゐるのは古來此の國內に於いての平常の生活ですらも不斷の警備と警戒を要することを表明してゐるものと云へるであらう。

況んや死物狂ひの敵性のあがき、策動、これに伴ふ各匪の蠢動の一層活潑な今日にあつて、この天地を縱橫に走る鐵道運營を遂行する上には、先づ鐵道警備と云ふものが如何に重要な第一義的役割であるか首肯し得るところであらう。

これを要するに、大東亞決戰下の重大時局に際會して、獨り北支の鐵道警備にのみ都合のよい條件は滿される筈もなく、また望むべくもないが、與へられた人員、武器、施設を以て負荷せられてゐる重大使命の完遂に遺憾なきを期することは敢て論を待つまでもないことである。

「註」本稿は事、警備戰闘に屬し、從て北支軍作戰警備との關係もあり讀者諸賢の參考となるべき事項も之を省畧したもの尠からず、ために全文を通じて委曲を盡さず隔靴搔痒の感なきにあらずと雖も敢て諒承を乞ふ次第である。

（筆者）

定縣實驗區工作

多田貞一

民國二十一二年頃、縣政改革の運動が起り、中國各地に實驗區模範縣が設定せられた。その中でも華北に於ては、河北省定縣と山東省鄒平の實驗縣が最も有名であつた。これらの運動と事變後、特務機關、新民會、華北交通等の指導による模範村、愛路村の建設とは、その任務と性質に於て根本的に相違してはゐるが、工作の內容方法は兩者は大體似たものであるから、彼等の行つた工作は、中國人自身の發意に因るものとして、大いに參考とすべきものがあり、又その殘した資料は十分利用の價値があるものと思はれる。

殊に定縣の工作は新民教育と稱して居るのも面白く、定縣縣公署には新民と題する當時の大きな額が掛つて居るが、彼等は或は自分達が、今日の新民會運動の先鞭をつけたものと思つて居るかも知れない。

鄒平にしても——梁漱溟の下には氏の鄕村建設哲學に共鳴した決死の青年が多く集つてゐたと言ふから、借すに歲月を以つてすれば、或は見るべきものがあつたかも知れないが——定縣にしてもその工作がやつと緒についたばかりで、今次の事變が勃發したのだから、その成果に對して兎角の批評をすることは、公平に見てそれは無理と言ふものであらう。

尤も定縣の方は民國二十四五年頃には、早くも行づまりを來してゐたのではないかと思はれる點があり、又共產黨に利用されてゐた形跡があつて、定縣の人の話では、彼等は支那事變をその二三ケ月前に豫知して居り、重要書類、重なる工作用具等をいち早く南方に運んだと稱して居た。

定縣には民國二十二年七月、河北省縣政建設研究院が設置され、縣政實驗區工作が開始せられる以前に、已に晏陽初を幹事長とする中華平民教育促進會（略して平教會と云ふ）なるものがあつて活動して居たのである。寧ろ平教會の工作を助ける意味で、此處に縣政實驗區が設けられたと言つた方が事實に近いであらう。現に平教會の幹部連中は皆研究院の役員を兼ねて居た。また平教會の經費は主として米國から出て居り、年額約三十萬元はあつたらしく、研究院の經費は僅かに月額五千餘元に過ぎなかつた。

平教會は民國十二年に成立し、最初は董事長等の寄附金に賴つてゐたが、十四年六月晏陽初がホノルルで開かれた中國太平洋國民會議の席上に於て、中國平民教育運動の重要性と國際性を强調し、頗る一般の同情を引起して直ちに相當の義捐金を集めることが出來た。これが平教事業發展の基礎となつたと稱してゐる。

一體民國十年前後は平民教育と云ふことが一つの風潮をなして居り、各學校、諸機關、慈善團體は先を爭つて平民學校、千字課班、半日學校、夜學等を設けたもので、平教會も始めはその一つであつたのが次第に政治的色彩を帶びて來たものであることはその名稱を見ても明かである。平教會は北京の石駙馬大街にその總會があつて、書物の出版發行等をしてゐたが、民國十五年に始めて定縣の翟城村を試驗區として所謂新民教育を開始した。

晏陽初は民國十七年、再び米國に渡り、米國全國教育會等と共に合作委員會なるものを組織し、五年間を限り一定の條件の下に補助金を受けることになつた。その條件及び金額は明にすることは出來ないが、自ら言ふ所によるとこの補助金は美國側の合作委員會に保管し、毎年條件に照して工作の成績を考核した上でその金を受けたと。兎に角この時から平教會の活動は急に活潑になり、十八年には翟城村から定縣城内に本部を移した。

平教會の幹部は殆んど米國系の教育を受けて居り、外國直譯の新智識を本國に應用せんとしたものであり、宣傳の必要も多分にあつたことは注意すべきで、この點に於て可成り反對もあつた樣であり、又喧傳せられた割に實效の擧らなかつた理由も此處にある。

幹事長の晏陽初は米國エール大學を卒業、民國八年プリンストン大學研究院に入つて政治經濟を專攻して學位を受けて居り、調査部主任の李景漢はカリフオルニア大學の碩士であり、同じく張世文は燕京大學社會學系の卒業生で、李景漢の弟子であつた。又試驗區主任の馮鋭は清華大學の出身で、米國コーネル大學の農學博士である。

次に平教會から出してゐる定縣實驗工作提要等によつてその工作の大要を記して見ようと思ふ。所謂新民教育は人民の生活改善から始り、民族の改造を目標とするものであるが、先づ民族の復興は農民の智識を啓發するにありとの觀點に基き、次いで中國民衆の缺點は愚窮弱私の四となし四大教育の綱目を定めた。即ち農民の「愚」を除き、その知識力を培養せんとする文藝教育と、農民の「窮」を除き、その生産力を培養せんとする生計教育と、農民の「弱」を除き、その健強力を培養せんとする衛生教育と、農民の「私」を除き、その團結力を培養せんとする公民教育とである。

一、社會調査　農村建設工作は必ず具體的方案がなければならぬ、而して具體的方案は必ず事實を以て根據としなければならぬ。その爲には、先づ精確な社會調査が必要であると云ふわけで、十六年から二十二年七月研究院が成立するまで、系統的科學的方法で縣内一切の社會情況を調査した。勿論不備な點は多々あるが、增税、共產、傳教、村民の仲間爭ひ、其の他村民の無理解から來る種々の調査上の困難を排除しながら遂行した統計記錄は相當信を置くに足るものであらう。

二、文藝教育　文字の整理、平民文學の研究、教科書並に平民讀物の編輯等をなした。

1、通用字の制定　平民書報九十種平民文件二十五種の中から、三千四百二十字の通行文字を選定す。

2、基本字の制定　通用字中から更に一千三百二十字の基本字（常用漢字に當るもの）を選定す。

3、詞表の制定　文字の制定だけでは尚不十分なることを感じ、平民通用の口頭語即ち俗語の制定を試みた。

4、略字を應用　農村通用の略字、都市商業界通用の略字の調査研究。

5、秧歌の採集　民衆娯樂の保存と改良の見地から秧歌（田植歌から一種の戯曲になりたるもの）を採集した。

6、鼓詞の採集　平民讀物の材料として大鼓詞凡そ二百三段を採集す。

7、民間文藝の採集　歌謠二百餘、歇後語三百、謎語三百餘、諺語六百餘、故事笑話百餘等が採集された。

8、編輯出版　四種の千字課と二種の高級文藝課本の發行は已に一千萬部に達し、其他三百四十種の平民讀物、農民週報等を發行す。

三、藝術教育　文藝教育の一部であるが、圖畫、音樂、無電、劇等に分けることが出來る。

1、圖畫　民間の刺繍、染印、編線等の模樣及び家庭の年畫、各種裝飾品、廟宇の壁畫等を捜集す。

2、繪製　圖畫教材の編輯、各種掛圖、幻燈畫の作製、農村圖畫巡廻展覽會の開催等をなす。

3、音樂　民間歌曲、樂器、樂譜の捜集、風琴、木棒琴、笛子等の樂器の製作をなす。

4、無線電　廣播無線電機具の製作をなし、社會教育普及に資す。

5、戯劇　農民劇團を組織訓練し、話劇を公演せしむ。

四、生計教育　農民生計上の現代知識と技術を訓練し、農村經濟建設の達成を期するものである。

1、實驗學校　生計巡廻訓練の實驗學校を開き、植物生產、動物生產、農村經濟、家庭工業等の生計訓練を行ふ。

2、農家表彰　成績優良の農家を選定し、之を表彰する。

3、合作社　信用、購買、生産、運銷の合作社を組織し、縣單位の合作經濟組織を目標とす。

4、植物生產　棉花、小麥、穀子、高粱、玉蜀黍等の新種の育成、白菜、梨の改良增産をはかる。

5、動物生産　華北各地の豚種の比較試驗及び鷄種の改良をなす。

五、公民教育　國族精神の發揚、民

衆の公共心と團結力の培養を期す。

1、農村自治研究　郷公所を成立せしめ、郷公約の修改、債務の整理、道路の修築等を指導す。

2、公民教育研究　公民道德の基本材料の研究と編輯をなし、節會等の機會を利用し村民を指導す。

3、家庭教育研究　家主、主婦、少年、閨女、幼童の五種の集會を組織し、家庭社會化をはかる。

六、衞生教育　衞生教育を實施し、農村醫藥衞生制度を創建せんとするものである。

1、保健員　每村保健員一人を設け死生の報告、井戸の改良、種痘の普及、救急治療等に當らしめる。

2、保健所　人口距離等を考へて、保健所區域を定め、所内に醫師一人、助理一人を置き、衞生教育、豫防注射、治療等をなさしめ、又全縣の總機關として保健院を設置す。

定縣實驗區工作の概要は大體以上の如きものであるが、その實際について當時の關係者から聞いたことを二、三記して見ると、イ、定縣の工作は少數の村に對して多額の金を注ぎ込んだのだから、多少見るべきものがあつたかも知れないが、同じ方法を全縣に及ぼすことは到底出來ない、まして他縣が之に倣ふことは益〻困難である。ロ、畢竟西洋留學生が外國に媚びて資金を貰ふ爲にした仕事であり、幹部は大抵熱心な耶蘇教信者で、國民黨は之を抗日教育に利用し、共產黨分子の潛入せる者も少からず、中國固有の道德を破壞した。又職員組織は複雜で各黨派に分れて意見の對立が甚しかつた。ハ、生計教育については、棉田の增加は穀田の減少となり、時に民食及び牲畜飼料の問題を發生したこともあり、吸上ポンプ利用の灌漑は、中國農村の實情に適せず結局失敗に終つた。ニ、合作社組織は信用合作社と運銷合作社が成立したが、前者は少數の土豪劣紳が合作社名義を用ひて分配使用し、一般社員はその利に與らず、又合作社に對する縣政府方面の意見が分岐して協力しなかつた爲、まだ十分發展を見るに至らず、後者即ち棉花運銷合作社は、合作系統が明らかでなかつた爲、納稅關係から、包稅人（租稅徵收請負人）と合作社の間に紛糾を生じ、果ては裁判沙汰となり、合作社の責任者を拘禁する等の事件が發生した。

要するに定縣實驗區工作は、漸く緒についたと言ふべきか、早くも行詰りを來して居たと言ふべきか、何れにしても、結果から見て一部民衆の智識の啓發に多少見るべきものがあつた以外は、殆んど何物をも留めないと言ふのが事實に近いであらう。只我等にとつて有り難いことは、二三の貴重な調査資料を、殘して置いてくれたことである。これ等の調査は相當の時日と費用を掛けねば出來ない上に、自國人の調査と言ふ點に意味がある。これは當時の調査員の言に徵しても十分利用價値のあるものと認めてよいと思ふ。その主な物は次の四種である。

一、鄉村社會調查大綱　馮鋭
鄉村社會、農業經營、農民經濟の各調查大綱を示したもの、約四百五十頁

二、定縣社會概況調查　李景漢
定縣の地理　歷史、縣政府び及其他地方團體、人口、教育、健康と衞生、農民生活費、鄉村娛樂、風俗と習慣、信仰、賦稅、財政、農業、工商業、農村借貸、災荒、兵災の十七章、約九百頁

三、定縣秧歌選　李景漢、張世文
定縣の田植歌を集錄したもの、愛情、孝節、夫婦關係、婆媳關係、諧謔、雜の六類に分つ、計四十八齣、約千頁

四、定縣農村工業調查　張世文
紡織、編織、食品、木工、化學、鐵等の家庭工業及び作坊工業の調查、約五百頁。

（筆者は北京大學講師）

第一書房　新刊
全國書店にて發賣いたします。御近所の書店へ豫め御註文下さい。

大川周明著
大東亞秩序建設
B6判　價一・九〇

金子大榮著
親鸞教の研究
A5判　價三・二五

山邊習學著
宗教的人生
B6判　價二・一〇

松本彥三郎著
鄉中教育の研究
A5判　價四・六五

齋藤茂吉著
小歌論
A5判　價四・二五

田部重治著
中世歐洲文學史
B6判　價二・六〇

フラワア・大田黑元雄譯
シュウベルト傳
B6判　價二・一〇

華北蒙疆鐵道

京山線（北京—山海關）
京古線（東便門—古北口）
京漢線（西便門—小冀）
津浦線（天津北站—蚌埠）
京包線（豐臺—包頭）
膠濟線（青島—濟南）
石德線（石門—德縣）
石太線（石門—太原）
同蒲線（大同—蒲州）
懷慶線（新鄉—懷慶）
隴海線（連雲碼頭—開封）

（お斷り「東城記」休載）

昭和十八年七月十五日印刷納本
昭和十八年八月一日發行

八月號（毎月一回一日發行）

編輯者 北京・華北交通株式會社資業局 加藤新吉
發行者 東京市麴町區三番地一 長谷川巳之吉
印刷者 東京市小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社 大橋芳雄
發行所 東京市麴町區三番町一 第一書房
振替・東京六四二三番 電話九段(33)二一四四番・一五番
會員登錄番號 一一六五〇八番

一册定價㊕三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分 金三圓六十錢

配給元 東京市神田區淡路町二丁目九番地 日本出版配給株式會社

禁無斷轉載・檢閲濟

特許製法の

純正化學療法劑

ボレオン「日染」は内服により血液、體組織へ殺菌性、抗菌性を賦與し病源菌を殺滅し治癒せしむるを特徴とする純正化學療法劑なり

適應症

扁桃腺炎
齒槽膿瘍
中耳炎
急・慢性淋疾
化膿性婦人科疾患
其他あらゆる化膿性疾患

二〇錠・一〇〇錠

ポレオン錠「日染」

NISSEN

製造發賣元 日本染料製造株式會社 大阪市此花區春日出町
一手販賣元 稻畑産業株式會社 大阪市南區順慶町二丁目

P－251

NISSEN

砒素驅黴劑

"日染"の新發賣！

今般弊社が完成したサビノールナトリウムは日本藥局方アルゼノベンゾールナトリウムに一致し其の規格に適合然も嚴密なる効力試驗並に臨床試驗を經て發賣す。

時局下眞面目なる醫藥の要望さるゝ折柄自信を以て御薦めし得る「日染」の驅黴劑を御認識賜はり御愛用あらん事を誌上を以て懇願申上げ新發賣の御挨拶に代へる次第であります

一號 二號 三號 四號 五號 六號

各一管入及一〇管入

サビノールナトリウム

製造發賣元 日本染料製造株式會社 大阪市此花區春日出町
一手販賣元 株式會社稻畑商店 大阪市南區順慶町二丁目

消耗性疾患に

V・B₁含有量
一錠中〇・五ミリグラム
一〇〇錠
三〇〇錠

高單位ビタミンB₁の給與は個体組織の酸化不全を調整し、促進せる赤血球沈降速度を遲延せしめ發熱・盜汗・分泌等に與る植物神經の興奮を鎭靜す……

胃腸筋壁の緊張を恢復し、食慾を振起し、脂肪吸收を改善し含水炭素の消化を助けて榮養をたかめ抗病力を增强せしむ。

【適應症】 消耗性・熱性疾患時、胃腸アトニー、食慾不振、妊產・授乳時の榮養補給、各型脚氣

Ⓐ武田發賣品

強力メタボリン錠

製法特許

85

エステル型合成女性ホルモン

オイベスチン錠は本邦唯一のエステル化スチルベン製劑なる故、腸に至つて徐々に分解吸收せられ………

その本來の生理作用を强力緩和而も持續的に發現し不安、嘔氣、嘔吐等の胃障害なき新合成女性ホルモン劑なり。

月經時障害 下腹痛、腰痛、下腹部緊滿感、頭重、腹痛

女性生理不調 月經過多、月經寡少、月經不順

更年期障害 頭痛、腰痛、疲勞倦怠感、四肢冷感

一錠中含有量五〇ガンマ　一〇〇錠　三〇〇錠

Ⓐ武田發賣品

オイベスチン錠

製法特許

205